



# 東京労災病院年報

2023

第23号

---





東京労災病院年報

2023

第23号



## 理 念

# 命の輝きを共有できる病院

## 基本方針

1. 質の高い急性期医療の実践
2. 安全で心温かな医療の提供
3. 地域の発展と災害医療への貢献
4. 勤労者医療の推進と普及
5. 職員の福利・厚生の上向
6. 健全な経営基盤の確立

# 2023 年年報

## 発刊によせて

東京労災病院 院長

森 田 明 夫



本年4月から東京労災病院の院長に就任させていただいた森田明夫と申します。2023年度の当院の臨床・両立支援・研究・教育等の活動の総括及び将来構想を知っていただくために長らく休刊しておりました年報を復活させていただきました。当院の現況と将来への方向指針をご照覧いただければ幸いです。当院は令和6年5月14日に創立75周年を迎えました。創立100年に向けての次の25年間にどうしてゆくかということを経験の医療のあり方の変化も含めて深く考えてゆかねばなりません。診療報酬の改定に代表される政府や官僚の医療に対する考え方や方向性に従って対応することも極めて大切ではあるのですが、最も大切な病院の役割はいかに地域住民の医療と健康を守っていくか？ということと、当院に勤務する医療者を含めた勤労者の健康と生活と夢を守ることが労災病院の役割だと考えております。そのために率直にお話して様々な課題を抱えた当院が目指す方向性は、1) 断らない救急医療の提供 2) 地域の連携医療機関との結びつきの強化（患者さんの取り合いではない相互WIN・WIN関係の構築）そして3) 新規患者の開拓 という3本の柱を当院の支柱である勤労者医療/両立支援・災害医療と共に強化してゆくということです。地域の住民の方々の健康を守るために開かれた施設となるように、コロナの影響で足が遠のきがちで閉鎖的となっていた病院施設や地域に解放し、人的資源を役立て、地域の健康・社会活動の一翼を担えるような機関として展開してゆこうと考えています。そのために、地域の教育施設や区役所、救急・消防との連携も強めています。市民に向けた講座やイベントなども地域医師会や区役所、地域の鉄道会社、その他企業と共にどんどん主催・共催させていただこうと考えています。

東京労災病院職員一同、今までの75年の伝統を踏まえつつ、現在の役割も十分に果たしつつ、真の意味で「命の輝きを共有できる病院」として新たな時代の医療機関となるよう努力して参ります。

今後とも変わらぬまたさらに一層のご指導及びご厚誼を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

# 目次

---

2023 年年報発刊によせて . . . . . 院長 森田 明夫

## I. 病院概況

1. 施設概要 . . . . .	1
2. 診療 . . . . .	1
3. 指定医療機関に関する事項 . . . . .	2
4. 認定施設 . . . . .	3
5. 診療受付 . . . . .	5
6. 施設基準の届出状況 . . . . .	5

## II. 各診療科・部門等の一年のあゆみ及び業績

1. 消化器内科 . . . . .	11
2. 腎臓代謝内科・血液浄化療法室 . . . . .	16
3. 呼吸器内科 . . . . .	19
4. 糖尿病・内分泌内科 . . . . .	22
5. 総合診療科 . . . . .	25
6. 脳神経内科 . . . . .	27
7. 循環器科 . . . . .	32
8. 精神科 . . . . .	36
9. 小児科 . . . . .	38
10. 消化器外科 . . . . .	40
11. 呼吸器外科 . . . . .	44
12. 乳腺外科 . . . . .	48
13. 整形外科 . . . . .	50
14. 形成外科・美容外科 . . . . .	53
15. 脳神経外科 . . . . .	55
16. 皮膚科 . . . . .	59
17. 泌尿器科 . . . . .	61
18. 産婦人科 . . . . .	64
19. 眼科 . . . . .	66
20. 耳鼻咽喉科 . . . . .	68
21. リハビリテーション科及び中央リハビリテーション部 . . . . .	72
22. 放射線診断科 . . . . .	75

23.	放射線治療科	77
24.	麻酔科	79
25.	脳神経移植科	80
26.	病理診断科	84
27.	救急科	85
28.	呼吸器センター	86
29.	アスベスト疾患センター	88
30.	薬剤部	89
31.	中央放射線部	94
32.	中央検査部	96
33.	中央臨床工学部	99
34.	健康診断部	101
35.	栄養管理部	103
36.	看護部	104
37.	地域医療連携室	107
38.	治療就労両立支援センター	108

### Ⅲ. 業務統計

1.	患者数推移	111
2.	令和5年度CPC開催状況	112

### Ⅳ. 出来事

1.	令和5年度の主な出来事	113
----	-------------	-----

# I. 病院概況



# 1. 施設概要

- 設置主体：独立行政法人 労働者健康安全機構
- 開設年月日：昭和24年5月14日
- 承認病床数：400床

# 2. 診療

## 【診療科目】

- 内科
- 呼吸器内科
- 脳神経内科
- 小児科
- 乳腺外科
- 脳神経外科
- 産婦人科
- リハビリテーション科
- 放射線治療科
- 病理診断科
- 消化器内科
- 糖尿病・内分泌内科
- 循環器科
- 消化器外科
- 整形外科
- 皮膚科
- 眼科
- 脳神経移植科
- 麻酔科
- 健康診断部
- 腎臓代謝内科・血液浄化療法室
- 総合診療科
- 精神科
- 呼吸器外科
- 形成外科・美容外科
- 泌尿器科
- 耳鼻咽喉科
- 放射線診断科
- 救急科

## 【専門外来】

○内科	高血圧外来、睡眠時無呼吸外来、禁煙外来、アスベスト健診、腹膜透析（CAPD）外来、バスキュラーアクセス外来、血液内科外来、フットケア外来、ペースメーカー外来
○精神科	勤労者メンタルヘルス外来、発達障害外来
○外科	ストーマ外来
○呼吸器外科	肺結節外来
○乳腺外科	遺伝性腫瘍外来
○整形外科	手外科外来
○形成外科・美容外科	美容外来、血管腫外来、先天異常外来
○産婦人科	乳房・育児相談外来
○耳鼻咽喉科	補聴器外来、めまい外来

**【専門センター】**

- 脳卒中センター
- 血管内治療センター
- 手外科センター
- 四肢外傷センター
- 難治性創傷治療センター  
（傷のケアセンター）
- 呼吸器外科センター
- 勤労者メンタルヘルス研究センター
- アスベスト疾患センター

**【コ・メディカル部門】**

- 薬剤部
- 中央放射線部
- 中央検査部
- 中央リハビリテーション部
- 中央臨床工学部
- 栄養管理部
- 看護部
- 入退院支援センター
- 医療サポートセンター
- 地域医療連携室
- 治療就労両立支援センター
- 両立支援相談窓口

**3. 指定医療機関に関する事項等（令和6年3月31日現在）**

承認事項	指定年月日	承認番号
健康保険に基づく保険医療機関 （保険薬局の指定）	S 24.10.1 (H 18.10.1)	東病併第 1542
結核予防法医療機関の指定	S 27.4.1	
国家公務員災害補償に基づく外科後処置の 指定	S 30.9.14 (S 56.10.31)	労協第 236 号公示第 9 号
覚せい剤取締法に基づく国の開設する覚せい 剤施用期間の指定	S 32.9.16	
国民健康保険に基づく療養取扱機関の指定	S 34.1.1	東病併大 1542
身体障害者福祉法に基づく更生医療機関の 指定 （眼科、耳鼻咽喉科、整形外科、脳神経外科） （腎臓）  （形成外科） （中枢神経）	S 34.7.10 (H 19.1.1) S 47.10.1 (H 19.1.1) H 19.1.1 H 19.4.1	厚生省発第 146 号 18 福保障計第 876 号、1124 号 47 民障福第 739 号 18 福保障計第 1124 号 18 福保障計第 1124 号 18 福保障計第 1520 号
児童福祉法に基づく育成医療機関の指定 （更生医療に同じ）	S 34.7.10 S 47.10.1	
厚生年金保険の廃疾認定に関する医療機関 の指定	S 37.7.20	
生活保護法医療機関	S 34.12.1	

承認事項	指定年月日	承認番号
原子爆弾被害者の医療等に関する法律に基づく一般疾患期間の指定	S 35.11.10	
労災保険におけるリハビリテーション医療実施施設の指定 (理学療法) (運動療法・作業療法・心理的作業療法・言語療法)	S 40.6.1 S 48.6.1 (H 8.10.1)	No.R37 No.R37 No.R90 - 労 12
救急病院告示	S 58.7.29 (H 14.8.1)	58 衛医救第 141 号 14 健医救第 230 号
臨床研修指定病院の指定	S 63.4.1	収健政第 141 号
地域医療支援病院	H 22.8.25	福保医安許第 6167 号
東京都災害拠点病院	H 26.11.21	26 福保医救第 940 号
東京都がん診療連携協力病院	R 5.4.1	4 福保医政第 2577 号
「紹介受診重点医療機関」指定	R 5.8.1	

## 4. 認定施設（令和6年3月31日現在）

当院は、臨床研修指定病院（厚生労働省指定）であり、また、下記学会等の認定専門医研修施設等（関連施設を含む）となっています。

内科	日本内科学会認定教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化管学会認定胃腸科指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本病態栄養学会専門医研修認定施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本大腸肛門病学会認定施設
脳神経内科	日本神経学会認定教育施設 日本老年精神医学会認定施設
循環器科	日本循環器学会循環器専門医研修施設

消化器外科	日本外科学会外科専門医制度修練施設 日本消化器外科学会専門医制度修練施設
呼吸器外科	日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本呼吸器外科学会認定連携施設
乳腺外科	日本乳がん検診精度管理中央機構 マンモグラフィ検診施設画像認定施設 日本乳癌学会認定関連施設
整形外科	日本整形外科学会専門医制度認定研修施設 日本手外科学会基幹研修施設
形成外科	日本形成外科学会連携施設
脳神経外科	日本脳神経外科学会研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本脳神経血管内治療学会研修施設 日本脳ドック学会認定施設
皮膚科	日本皮膚科学会認定専門医研修施設
泌尿器科	日本泌尿器科学会専門医教育施設
産婦人科	日本専門医機構産婦人科領域連携施設
眼科	日本眼科学会専門医制度研修施設
耳鼻咽喉科	日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
リハビリテーション科	日本リハビリテーション医学会認定研修施設
放射線診断科	日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
麻酔科	日本麻酔科学会麻酔科認定病院
救急科	日本救急医学会救急科専門医指定施設
病理科	日本病理学会研修認定施設B
薬剤部	日本医療薬学会医療薬学専門研修施設 日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設
栄養管理部	日本静脈経腸栄養学会実地修練認定教育施設 日本静脈経腸栄養学会認定N S T稼働施設 日本栄養療法推進協議会認定N S T稼働施設 日本病態栄養学会認定栄養管理・N S T実施施設
病院	国の開設する覚せい剤施用機関 臨床研修指定病院 東京脳卒中急性期医療機関

## 5. 診療受付

---

- 受付時間：午前8時15分～午前11時
- 休診日：土・日曜日・祝日
- 救急受付：24時間

## 6. 施設基準の届出状況（令和6年3月31日現在）

---

### I 基本診療料の施設基準（厚生労働省令告示第62号）

- 一般病棟入院基本料（急性期一般入院料1）
  - 臨床研修病院入院診療加算
  - 救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算
  - 超急性期脳卒中加算
  - 診療録管理体制加算2
  - 医師事務作業補助体制加算2のイ（20:1）
  - 急性期看護補助体制加算（25:1）（看護補助者5割以上）
  - 夜間100対1急性期看護補助体制加算
  - 夜間看護体制加算
  - 看護補助体制充実加算
  - 看護職員夜間12対1配置加算1
  - 療養環境加算
  - 重症者等療養環境特別加算
  - 緩和ケア診療加算
  - 栄養サポートチーム加算
  - 医療安全対策加算1
  - 医療安全対策地域連携加算1
  - 感染対策向上加算1
  - 指導強化加算
  - 重症患者初期支援充実加算
  - 患者サポート体制充実加算
  - 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
  - 呼吸ケアチーム加算
  - 後発医薬品使用体制加算1
  - 病棟薬剤業務実施加算1
  - 病棟薬剤業務実施加算2
  - データ提出加算2
  - 認知症ケア加算1
-

- せん妄ハイリスク患者ケア加算
- 地域医療体制確保加算
- 入退院支援加算 1
- 地域連携診療計画加算
- 入院時支援加算
- 特定集中治療室管理料 3
- 早期・離床リハビリテーション加算
- 早期栄養介入管理加算
- 小児入院医療管理料 5
- 地域包括ケア病棟入院基本料 2
- 看護職員処遇改善評価料（5 2）

## II 特掲診療料の施設基準（厚生労働省令告示第63号）

- 在宅療養後方支援病院
- 心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング
- 糖尿病合併症管理料
- がん性疼痛緩和指導管理料
- がん患者指導管理料イ
- がん患者指導管理料ロ
- がん患者指導管理料ハ
- がん患者指導管理料ニ
- 外来緩和ケア管理料
- 糖尿病透析予防指導管理料
- 小児運動器疾患指導管理料
- 乳腺炎重症化予防ケア・指導料
- 婦人科特定疾患治療管理料
- 二次性骨折予防継続管理料 1
- 二次性骨折予防継続管理料 2
- 二次性骨折予防継続管理料 3
- 院内トリアージ実施料
- 夜間休日救急搬送医学管理料
- 救急搬送看護体制加算 1
- 外来放射線照射診療料
- 外来腫瘍化学療法診療料 1
- 連携充実加算
- ニコチン依存症管理料
- 療養・就労両立支援指導料

- 相談支援加算
- 開放型病院共同指導料
- 肝炎インターフェロン治療計画料
- 薬剤管理指導料
- 医療機器安全管理料 1
- 医療機器安全管理料 2
- 在宅患者訪問看護・指導料の注 2
- 在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の遠隔モニタリング加算
- 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
- 持続血糖測定器加算 / 皮下連続式グルコース測定
- 遺伝学的検査
- BRCA 1 /2 遺伝子検査
- HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
- 検体検査管理加算（Ⅰ）、（Ⅳ）
- 遺伝カウンセリング加算
- 埋込型心電図検査
- 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
- 長期継続頭蓋内脳波検査
- 神経学的検査
- 補聴器適合検査
- 小児食物アレルギー負荷検査
- 内服・点滴誘発試験
- CT 透視下気管支鏡検査加算
- 画像診断管理加算 1、2
- CT 撮影及びMRI 撮影  
（イ. CT 6 4 列以上のマルチスライス型の器機によるもの）  
（1. 3. 0 テスラ以上の器機による場合）
- 冠動脈CT 撮影加算
- 心臓MRI 撮影加算
- 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
- 外来化学療法加算 1
- 無菌製剤処理料
- 人工腎臓（慢性維持透析を行った場合 1）
- 導入期加算 1
- 透析液水質確保加算
- 下肢末梢動脈疾患指導管理料
- 慢性維持透析濾過加算

- 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
- 廃用症候群リハビリテーション料（Ⅰ）
- 運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
- 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
- 摂食機能療法の注3に規定する摂食嚥下機能回復体制加算2
- がん患者リハビリテーション料
- 緊急整復固定加算及び緊急挿入加算
- 椎間板内酵素注入療法
- 脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む）及び脳刺激装置交換術
- 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
- 緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））
- 緑内障手術（流出路再建術（眼内法）及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術）
- 乳腺悪性腫瘍手術における乳がんセンチネルリンパ節加算1（併用法）
- 経皮的冠動脈形成術
- 経皮的冠動脈ステント留置術
- 経皮的中隔心筋焼却術
- ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
- 埋込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
- 大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
- 経皮的大動脈遮断術
- ダメージコントロール術
- 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
- 腹腔鏡下肝切除術（部分切除及び外側区域切除）
- 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
- 人工尿道括約筋植込・置換術
- 医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる手術
- 胃瘻造設術（内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。）及び胃瘻造設時嚥下機能評価加算
- 定位放射線治療呼吸性移動対策加算（その他のもの）
- 定位放射線治療
- 病理診断管理加算1
- 悪性腫瘍病理組織標本加算Ⅲ入院時食事療養費に係る食事療養の費用の額の算定に関する基準
- 入院時食事療養費（Ⅰ）
- 食堂加算（1日につき50円）Ⅳ保険外併用療養費に関する事項
- 医薬品の治験に係る診療
- 特別の療養環境の提供（特別室）

- 入院医療に係る病院（許可病床400床以上の地域医療支援病院）の初診・再診
- 予約に基づく診察
- 医科点数表等に規定する回数を超えて受けた診療
- 入院期間が180日を超える入院
- 輸血管管理料Ⅱ
- 自己生体組織接着剤作成術
- 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
- 麻酔管理料（Ⅰ）
- 放射線治療専任加算
- 放射線治療専任加算
- 外来放射線治療加算
- 画像誘導放射線治療加算
- 体外照射呼吸性移動対策加算
- 高エネルギー放射線治療
- 一回線量増加加算（全乳房照射）
- 定位放射線治療呼吸性移動対策加算（その他のもの）
- 定位放射線治療
- 病理診断管理加算1
- 悪性腫瘍病理組織標本加算

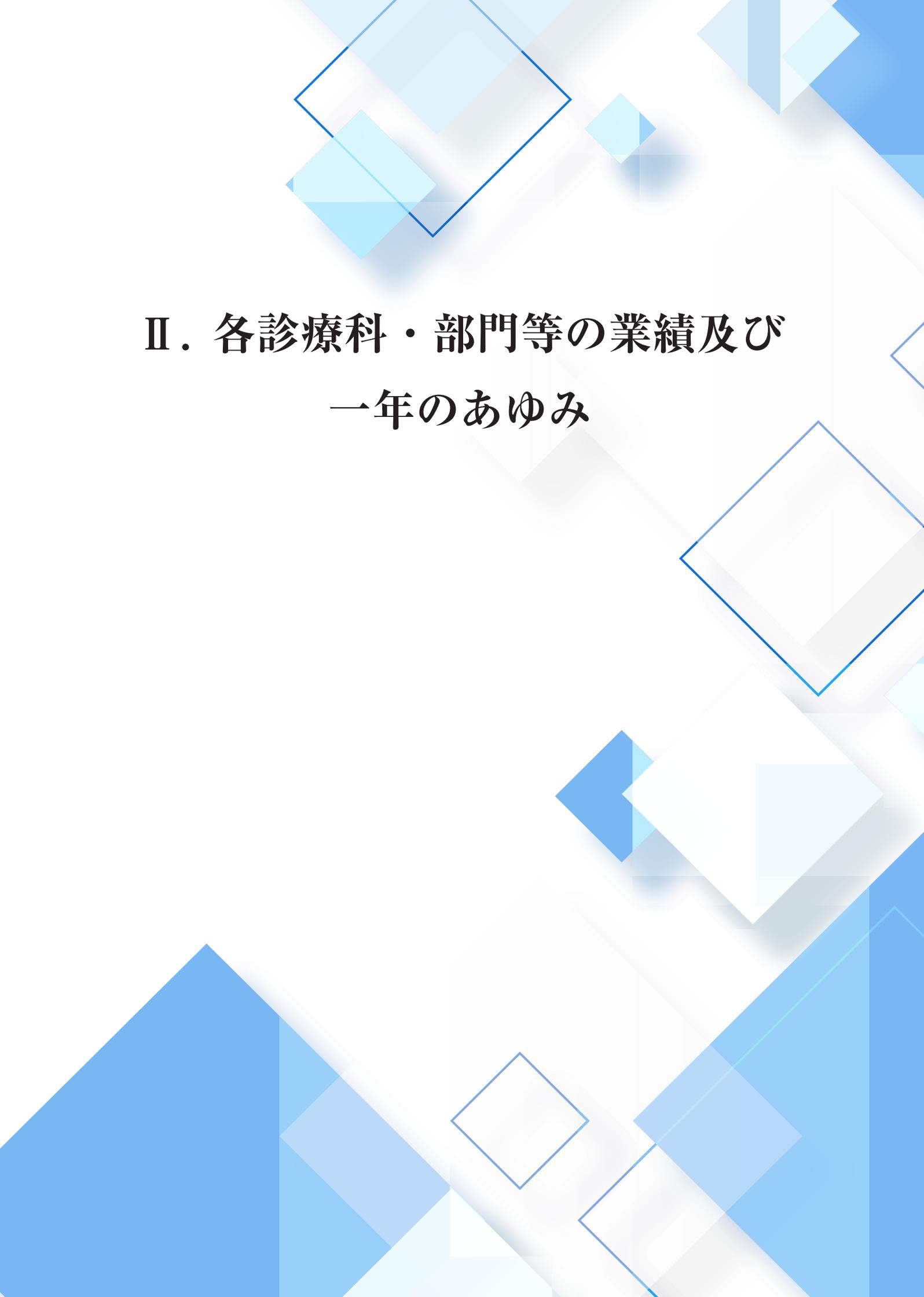
### Ⅲ 入院時食事療養費に係る食事療養の費用の額の算定に関する基準

- 入院時食事療養費（Ⅰ）
- 食堂加算（1日につき50円）

### Ⅳ 保険外併用療養費に関する事項

- 医薬品の治験に係る診療
- 特別の療養環境の提供（特別室）
- 入院医療に係る病院（許可病床400床以上の地域医療支援病院）の初診・再診
- 予約に基づく診察
- 医科点数表等に規定する回数を超えて受けた診療
- 入院期間が180日を超える入院





## Ⅱ. 各診療科・部門等の業績及び 一年のあゆみ



# 1. 消化器内科

---

## 【医師（令和5年度在籍）】

部 長：西中川 秀太

第二部長：大場 信之

第三部長：乾山 光子

副 部 長：荻野 悠、渡辺 浩二

医 師：高橋 伸太郎、折原 慎弥、池上 遼、平泉 泰翔、中島 一彰

## 1. 1年のあゆみ

### 消化器内科 活動報告

2023年度は西中川、大場信之第二部長、乾山光子第三部長、荻野悠副部長、渡辺浩二副部長、高橋伸太郎医師、折原慎弥医師、平泉泰翔医師、池上遼医師、中島一彰医師の10名で診療に従事しました。

大場部長は外来、病棟、内視鏡診療に加えNST業務、研修医の指導などこれまでと同様、八面六臂のご活躍でした。乾山部長は消化管疾患、特に早期癌の内視鏡治療を中心に頑張っていたいただき、学会発表、専攻医の指導にも尽力いただきました。両副部長には大学での専門知識を生かして荻野副部長は肝臓専門医として肝疾患全般の治療にあたっていたいただきのみならず、内視鏡診療も積極的に行っていただきました。渡辺先生は胆、膵の内視鏡治療の中心として頑張っていたいただきました。高橋先生は当院で4年間に亘って消化器内科診療に携わっていただきましたが、来年から神奈川県内の病院で診療に従事されることになりました。これまでの働きに感謝します。折原先生は各学会の専門医も取得され、若手医師の中心となって診療にあたっていました。平泉先生は当院の2年間の専攻医研修を終え東京医大に戻られました。重症例も数多く担当していただき本当にご苦労様でした。大学でのご活躍を期待します。池上、中島両先生は当院での1年目で慣れない環境でしたが、お二人とも温厚で病棟、内視鏡その他のスタッフとも良好な関係を築いていただきました。次年度もよろしくお祈いします。

2023年度はCOVID-19も5類感染症に移行し、内視鏡検査などもほぼ例年同様になってきた1年でした。平均入院患者数は45名、平均外来患者84名でした。次年度以降も一同協力しさらに患者確保に努めていきたいと思っています。

下記の学会活動を行いました。日々の診療に忙しいですが、若手医師の良い勉強の場でもありさらに発展させていきたいと考えています。

（文責 西中川）

## 2. 資格・専門医等

### 部 長：西中川 秀太

専門医：日本内科学会 総合内科専門医、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会  
日本肝臓学会

指導医：日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本肝臓病学会

その他：日本医師会認定産業医、身体障害者福祉法第15条指定医 難病指定医、がん診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会 修了、厚生労働省認定臨床研修指導医、日本救急医学会 ICLS コース修了

### 第二部長：大場 信之

専門医：日本内科学会 認定医、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本消化管学会、日本消化管学会胃腸科専門医、日本ヘリコバクター学会、日本病態栄養学会 病態栄養専門医 NSTコーディネーター

指導医：日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会

その他：日本医師会認定産業医、身体障害者福祉法第15条指定医 難病指定医、がん診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会 修了、がんのリハビリテーション研修修了、臨床研修プログラム責任者養成講習会修了、嚥下機能評価研修修了、看護師特定行為研修指導者講習会修了、厚生労働省認定臨床研修指導医

### 第三部長：乾山 光子

専門医：日本内科学会認定医、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本ヘリコバクター学会

指導医：日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会

その他：身体障害者福祉法第15条指定医 難病指定医、がん診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会 修了、日本救急医学会 ICLS コース修了、厚生労働省認定臨床研修指導医

### 副部長：荻野 悠

専門医：日本内科学会 認定医、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本肝臓学会

指導医：日本消化器内視鏡学会

その他：身体障害者福祉法第15条指定医 難病指定医、がん診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会 修了、厚生労働省認定臨床研修指導医

**副部長：渡辺 浩二**

専門医：日本内科学会 認定医、日本内科学会総合内科専門医、日本肝臓学会専門医、  
日本消化器病学会専門医  
その他：厚生労働省認定臨床研修指導医

**医師：高橋 伸太郎**

専門医：日本肝臓学会専門医、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医、日本消化器  
病学会消化器病専門医

**医師：折原 慎弥**

専門医：日本内科学会 内科専門医、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会  
その他：JMECC修了

**医師：池上 遼**

その他：がん診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会 修了、JMECC修了

**医師：中島 一彰**

その他：がん診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会 修了

### 3. 業績

〈学会発表〉

「原発性副甲状腺機能亢進症に併発し意識障害が遷延した重症急性膵炎」

平泉泰翔、西中川秀太、井上楠奈子、嵐山真、折原慎弥、渡辺浩二、吉峰尚幸、  
高橋伸太郎、乾山光子、大場信之

日本消化器病学会 第374回関東支部例会 2023.4

「急性出血性直腸潰瘍の臨床的特徴および再出血リスク因子の検討」

折原慎弥、高橋伸太郎、乾山光子、大場信之、西中川秀太

第116回 日本消化器内視鏡学会 関東支部例会 2023.6

「薬疹との鑑別を要した H.pilori 過敏反応の1例」

池上遼、乾山光子、中島一彰、平泉泰翔、折原慎弥、渡辺浩二、高橋伸太郎、荻野悠、  
大場信之、西中川秀太、川嶋萌、眞部俊

日本消化器病学会 第375回関東支部例会 2023.7

「オキサリプラチンによる類洞閉塞症候群に対し脾動脈部分塞栓術及びバルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術を施行し化学療法を継続し得た胃癌の1例」

中島一彰、西中川秀太、大場信之、乾山光子、荻野悠、高橋伸太郎、渡辺浩二、折原慎弥、平泉泰翔、池上遼

日本消化器病学会 第376回関東支部例会 2023.9

「当院における85歳以上の超高齢者の大腸憩室出血症例の臨床的検討」

平泉泰翔、西中川秀太、井上楠奈子、嵐山真、折原慎弥、渡辺浩二、吉峰尚幸、高橋伸太郎、乾山光子、大場信之、

第106回 日本消化器内視鏡学会総会 2023.11

「高齢者の胃ESDにおける筋肉量の変化」

乾山光子、折原慎弥、井上楠奈子、嵐山真、平泉泰翔、渡辺浩二、吉峰尚幸、高橋伸太郎、大場信之、西中川秀太、

第65回 日本消化器病学会大会 2023.11

「経時的に経過を追えた細胆管細胞癌の1例」

池上遼、荻野悠、平泉泰翔、中島一彰、折原慎弥、渡辺浩二、高橋伸太郎、乾山光子、和久井紀貴、塩野さおり、大場信之、西中川秀太

日本消化器病学会 第377回関東支部例会 2023.12

「ESDを施行した早期胃神経内分泌細胞癌の一例」

中島一彰、池上遼、平泉泰翔、折原慎弥、渡辺浩二、高橋伸太郎、荻野悠、乾山光子、大場信之、西中川秀太

第117回 日本消化器内視鏡学会 関東支部例会 2023.12

「仮性動脈瘤からの後腹膜血種により十二指腸狭窄を合併した正中弓状靭帯症候群の1例」

平泉泰翔、西中川秀太、中島一彰、池上遼、折原慎弥、渡辺浩二、高橋伸太郎、荻野悠、乾山光子、大場信之

日本消化器病学会 第378回関東支部例会 2024.2

## 4. 統計

### 【患者数推移】

(人/日)

	R3年度	R4年度	R5年度
1日平均外来患者数	84.2	87.9	83.5
1日平均入院患者数	39.7	38.5	45.0

### 【症例件数】

(件)

1	大腸ポリープ	202
2	胃癌	62
3	膀胱癌	36
4	肝硬変症	35
5	誤嚥性肺炎	31
6	大腸癌	31
7	肝細胞癌	30
8	急性胆嚢炎	26
9	直腸癌	25
10	食道癌	22
11	その他	762

## 2. 腎代謝内科・血液浄化療法室

---

### 【医師（令和5年度在籍）】

部 長：矢島 愛治  
副 部 長：金井 弘次、川地 慧子  
医 師：川嶋 萌、渡邊 芳

### 1. 1年のあゆみ

腎臓代謝内科は、腎疾患（腎炎、ネフローゼ、遺伝性腎疾患、慢性腎臓病）、高血圧、電解質異常、浮腫、膠原病および透析患者さんの各種合併症の診療を行います。

腎疾患は多くの場合に自覚症状がありません。健診での尿所見異常や症状のない高血圧をいかに受診、治療につなげるかが大切です。なぜ「大きな病院に行け」と言われたかは良く分からなかったが、「紹介してもらえて良かった」を地域に還元できる腎臓代謝内科を目指しています。一方で、自覚症状の出現した患者さんでは、いかに保存期腎不全の期間を長く保つか、適切なタイミングで腎代替療法を導入するかが肝腎です。地域の先生との病診連携を重視し、緊急受診を含めて対応できるように努めています。

腎炎、ネフローゼ症候群の診療は当科の伝統的に得意とする分野です。軽微な尿所見異常が診断、治療につながり患者さんの予後を大きく左右します。経皮的腎生検は週2日の枠を確保し、院内での評価を行い治療に直結させています。

高血圧診療では、各種の二次性高血圧の評価と食事療法を組み合わせ、最小限の投薬で治療目標を達成する患者満足度の高い医療を行います。

膠原病診療では、全身性エリテマトーデス、各種血管炎、IgG4 関連疾患などの多様な疾患の診療を行っています。

透析患者さんは年々高齢化し、各種合併症が増加しています。バスキュラーアクセス不良に対する経皮的血管形成術（PTA）は年間100例程度施行しています。

伝統を継承しつつ、今まで以上に地域の先生がた患者さんへ貢献させていただければと思います。よろしく願い申し上げます。

### 2. 資格・専門医等

部 長：矢島 愛治  
専門医：日本透析医学会専門医、日本泌尿器科学会専門医  
指導医：日本透析医学会指導医  
その他：日本透析医学会評議員

### 副 部 長：金井 弘次

専門医：日本内科学会認定内科医、日本腎臓学会腎臓専門医、日本透析医学会透析専門医

---

**副部長：川地 慧子**

専門医：日本内科学会認定内科医、日本内科学会総合内科専門医、  
日本腎臓学会腎臓専門医、日本透析医学会透析専門医  
その他：厚生労働省認定臨床研修指導医

**医師：川嶋 萌**

専門医：日本内科学会認定内科医、日本内科学会総合内科専門医、  
日本腎臓学会腎臓専門医、日本透析医学会透析専門医

**3. 業績****〈学会発表〉**

「尿細管間質障害の病態と臨床像尿細管間質障害の病態と臨床像」

シンポジウム9「腎病理 CME：系統的腎病理教育シリーズ04 尿細管障害を考える」

眞部俊（東京労災病院 腎臓内科）2023.5.23

「肺動静脈瘻コイル塞栓後の再開通により低酸素血症をきたしていた一例」

川嶋萌：1,2、川地慧子：1,2、金井弘次：1、眞部俊：1,2、長瀬雅則：3、星野純一：2

1：東京労災病院腎代謝内科、2：東京女子医科大学病院腎臓内科、

3：東京労災病院放射線科

日本透析医学会学術集会 横浜 2023.5.28

「ヘリコバクター・ピロリ過敏症により多型紅斑,急性腎障害をきたした一例」

川嶋萌：1、眞部俊：1、川地慧子：1、金井弘次：1、乾山光子：2、河合亨：3、

西中川秀太：2、林健：4、阿部理一郎：3、星野純一：5

1：東京労災病院腎代謝内科、2：東京労災病院消化器内科、3：新潟大学病院皮膚科、

4：東京労災病院皮膚科、5：東京女子医科大学病院腎臓内科

日本腎臓学会東部学術大会 仙台 2023.9.5

ADCK4 変異による COQ10 腎症の一卵性双生児

眞部俊：1、川嶋萌：1、川地慧子：1、金井弘次：1、森崇寧：2、種田積子：3、

森山能仁：4、星野純一：2

1：東京労災病院腎代謝内科、2:東京医科歯科大学腎臓内科、

3：東京女子医科大学腎臓内科、4：東京医科大学腎臓内科

日本腎臓学会東部学術大会 仙台 2023.9.5

ランチョンセミナー3「免疫グロブリン性アミロイドーシスの診断と治療」

演者 眞部 俊（東京労災病院 腎臓代謝内科）

日本腎臓学会東部学術大会 仙台 2023.9.5

Acute kidney injury and erythema multiforme associated with Helicobacter pylori eradication therapy: Not invariably drug allergy

Moe Kawashima, Shun Manabe, Harufumi Ogino, Kaori Watanabe, Kawachi Keiko, Koji Kanai, Junichi Hoshino

ASN Kidney week 2023

#### 4. 統計

【患者数推移】 (人/日)

	R3年度	R4年度	R5年度
1日平均外来患者数	55.9	55.2	50.7
1日平均入院患者数	12.9	12.3	13.9

【症例件数】 (件)

1	慢性腎不全	96
2	COVID-19	26
3	末期腎不全	19
4	ネフローゼ症候群	14
5	IgA腎症	13
6	誤嚥性肺炎	10
7	尿路感染症	10
8	低ナトリウム血症	9
9	急性腎盂腎炎	8
10	肺炎	8
11	その他	118

#### 5. 令和6年度の体制について

令和6年度より新体制となっています。

【医師（令和6年度在籍）】

副部長：宮野 姿子

## 3. 呼吸器内科

### 【医師（令和5年度在籍）】

部 長：河野 正和

第二部長：松村 琢磨

医 師：伊藤 幸祐、石毛 昌樹、八木沢 万里江、堂脇 崇弘

### 1. 1年のあゆみ

令和5年度はCOVID-19流行の中の2年間をご活躍してくれた秋元裕人先生がJCHO新宿病院に異動し、新たに慶応大学附属病院で初期研修を修了した堂脇崇弘先生が着任しました。長く当院呼吸器内科、当院の副院長として活躍された戸島先生の退職後であり、またCOVID-19の影響は依然として残りつつ次のステージへ移りつつあった一年であり、さらに当方としては当院で最初の内科専攻医である八木沢万里江先生の当院での2年の研修の最終年となり内科専攻医研修のサマリー作成等をはじめとする業務の責任についても痛感した一年でもありました。若い新任の医師のもつ新鮮な視点を大切にしつつ、これまでの歴史の積み重ねによる現状のState of the artsにCatch upすべく努力してきました。特に当科は呼吸器外科と共に、当院では唯一の東京都がん診療連携協力病院（肺がん）としての指定を受け、悪性腫瘍の診療について積極的に取り組んでいます。

また当院では呼吸器外科、放射線科と合同での呼吸器センターおよびカンファレンスを毎週行って診療を勧められる環境ができております。その他、当方が責任者として精神科医師、緩和ケア認定看護師、薬剤部、栄養部と合同での緩和ケアチーム活動も行っています。健診についてもアスベスト疾患センターとして健康診断部の中で、厚労省の委託による石綿健診を年間300例及び大田区の石綿健診はおよそ20例を当科が施行しています。

今年度については下記について取り組んでいます。

- ① 肺癌をはじめとした、胸部腫瘍性疾患の診療の強化。  
松村琢磨医師を中心に、内視鏡検査や遺伝子診断について進めています。
- ② カンファレンス内容と診療内容のデータ化を進める。  
伊藤幸祐医師を中心に、現在のITの水準にすべく対応しています。
- ③ 在籍医師が研究テーマとしていた睡眠時無呼吸症について、検査及び外来の拡充を図り、かつ労災病院ならではの両立支援センターと共同で取り組む。  
松村琢磨医師、当方河野の研究テーマの一つでもある睡眠時無呼吸症について、検査・治療・研究の拡充を考えております。また労災病院の特色としての職域医療および地理的条件を踏まえた産業医学的アプローチ、上記センターの保健活動との連携を行うべく準備しています。検査部との連携も検討しています。

- ④ 学会、論文等の学術活動を再開する。また当科の活動についての地域、職域へのPRに努める  
伊藤幸祐医師、病診連携部・医事課の協力により進めています。
- ⑤ 経気道感染病原体のワクチン接種推進  
RSウイルスなど新規のワクチンの上市が増加しているように、Global healthの趨勢でもあり積極的な採用・推進を考えています。

## 2. 資格・専門医等

### 部 長：河野 正和

認定医：がん治療認定医

専門医：内科学会総合内科専門医、呼吸器学会専門医、吸器内視鏡学会専門医

指導医：内科学会総合内科指導医、呼吸器学会指導医、呼吸器内視鏡、学会指導医

その他：学位、緩和ケア研修会修了、厚生労働省認定臨床研修指導医、  
ISTM Certificate of Travel Health

### 第二部長：松村 琢磨

認定医：がん治療認定医、睡眠医療認定医

専門医：内科学会総合内科専門医、呼吸器学会専門医、呼吸器内視鏡学会専門医

指導医：内科学会総合内科指導医、呼吸器学会指導医

その他：学位、緩和ケア研修会修了、厚生労働省認定臨床研修指導医

### 医 師：伊藤 幸祐

専門医：認定内科専門医

### 医 師：石毛 昌樹

専攻医

### 医 師：八木沢 万里江

専攻医

### 非 常 勤：鈴木 友里

専門医：内科学会総合内科専門医、呼吸器学会専門医

### 3. 業績

#### 〈原著論文〉

Respir Med Case Rep.2023; 43: 101846.Takuma Matsumura Acute exacerbation of pleuroparenchymal fibroelastosis with lower lobe usual interstitial pneumonia: An autopsy case

#### 〈学会発表〉

「乳癌術後補助化学療法中にドセタキセルによる過敏性肺炎型の薬剤性肺炎を発症した一例」

八木沢万里江、河野正和、松村琢磨、伊藤幸祐、石毛昌樹、堂脇崇弘

第254回日本呼吸器学会関東地方会 2023.5.13

「気管支粘液塞栓から *Aspergillus hiratsukae* を検出し、気管支肺アスペルギルス症が疑われた1例

堂脇崇弘、河野正和、松村琢磨、伊藤幸祐、石毛昌樹、八木沢万里江（東京労災）、  
渡辺 哲（千大・真菌医学研究センター）

### 4. 統計

#### 【患者数推移】

（人／日）

	R3年度	R4年度	R5年度
1日平均外来患者数	35.9	27.9	30.3
1日平均入院患者数	32.0	28.6	32.7

入院患者数 内訳（疾患別）

#### 【症例件数】

（件）

1	肺癌	224
2	誤嚥性肺炎	59
3	COVID-19	57
4	肺炎	37
5	慢性閉塞性肺疾患の急性増悪	23
6	細菌性肺炎	18
7	インフルエンザ	15
8	下葉肺扁平上皮癌	11
9	気管支喘息	11
10	突発性間質性肺炎	10
11	その他	226

## 4. 糖尿病・内分泌内科

---

### 【医師（令和5年度在籍）】

部 長：桑原 公一郎

副 部 長：古賀 晋一郎

医 師：土方 麻衣、金澤 憲（非常勤）

### 1. 1年のあゆみ

本邦において、糖尿病患者数は予備群を含めると2,000万人と推計されています（平成28年国民健康・栄養調査〈厚生労働省〉）。合併症（脳卒中、心筋梗塞、足壊疽、増殖網膜症、慢性腎不全など）の発症・進展を抑止するためには早期発見と適切な医療提供が重要ですが、糖尿病が強く疑われる人の3分の1は治療を受けていないと言われています。このような状況に対応することを主目的として平成14年6月に開設された当科では、年々順調に管理患者数が増加してきました。

糖尿病（特に2型）やメタボリック・シンドロームなどの代謝疾患は、その治療において生活習慣の改善が必須です。患者さんが各々の疾患と病状をよく理解し主体的な療養行動を開始・継続することを支援するため、他職種によるチーム医療の重要性が強調されています。当科では、糖尿病看護認定看護師\*、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士（運動療法士）などのCDEJ\*\*有資格者及び医師によって構成される糖尿病代謝疾患コンサルテーション・ユニットと協働して、糖尿病などの代謝疾患に対するチーム医療を展開しています。外来診療では、平成18年に管理栄養士および看護師による継続的療養指導システムが整備され、治療成績の向上に大きく役立っています。平成22年には看護師有資格者による糖尿病フットケア外来が新設され、足病変を有する多くの糖尿病患者さんから好評を得ています。入院診療では、一般的な入院治療のほか、インスリン療法を安全かつ確実に導入していただくための短期入院（2日間）や、フォーミュラー食を用いた超低カロリー食餌療法（VLCD）も実施しています。

また、内分泌疾患についても積極的に診療しており、糖代謝疾患に限らず、間脳・下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺・骨代謝疾患、副腎疾患および性腺疾患などの多彩な症例について、他科との連携のもとで治療にあたっています。

平成19年4月1日付けで、日本内分泌学会認定教育に認定されました。

\* 糖尿病看護認定看護師：日本看護協会の認定審査に合格した、糖尿病看護において熟練した看護技術と知識を有すると認められたリソース・ナース。

\*\* CDEJ：Certified Diabetes Educator of Japan。日本糖尿病療養指導士認定機構によって認定された、糖尿病療養指導に関するエキスパート。

## 2. 資格・専門医等

### 部 長：桑原 公一郎

認定医：日本内科学会認定医

専門医：日本内科学会専門医、日本内分泌学会専門医（内分泌代謝科〔内科〕）

指導医：日本内分泌学会指導医（内分泌代謝科〔内科〕）、専門門研修指導医

その他：内分泌代謝、糖尿病内科領域

### 副 部 長：古賀 晋一郎

専門医：日本内科学会総合内科専門医、日本糖尿病学会専門医、日本小児科学会小児科専門医、日本透析医学会透析専門医、日本腎臓学会腎臓専門医

指導医：日本腎臓学会指導医、日本糖尿病協会指導医、日本専門医機構特任指導医、社会医学系専門医協会指導医

その他：厚生労働省認定臨床研修指導医

### 医 師：土方 麻衣

認定医：内科学会認定医

専門医：日本糖尿病学会専門医

### 医 師：金澤 憲

認定医：日本内科学会認定内科医、日本糖尿病学会認定医、日本糖尿病協会糖尿病認定医

専門医：日本内科学会専門内科医、日本糖尿病学会糖尿病専門医

その他：内分泌代謝・糖尿病内科領域 専門研修指導医

### 3. 統計

#### 【患者数推移】

(人/日)

	R3年度	R4年度	R5年度
1日平均外来患者数	69.4	67.1	64.8
1日平均入院患者数	6.6	6.7	10.6

#### 【症例件数】

(件)

1	2型糖尿病・糖尿病性合併症なし	37
2	下垂体機能低下症の疑い	27
3	下垂体機能低下症	11
4	誤嚥性肺炎	10
5	尿路感染症	9
6	成人成長ホルモン分泌不全の疑い	8
7	COVID-19	7
8	低血糖	7
9	糖尿病・糖尿病性合併症なし	6
10	副腎皮質機能低下の疑い	6
11	その他	109

## 5. 総合診療科

### 【医師（令和5年度在籍）】

部 長：山本 武史

#### 1. 1年のあゆみ

総合診療科は2020年1月より診療を開始しました。基本的には内科的治療を要する患者さんで、いわゆる専門診療でなくても治療が可能な患者さんの入院診療を中心に開始となりました。しかし、2020年は新型コロナウイルス感染症が猛威を振るった時期に重なり、通常の診療が行えずにありました。新型コロナウイルス感染症の診療をどのように行うかについては院内でも議論があり、最終的に総合診療科が発熱外来となる診療を請け負う形になりました。2020年2月20日からは本格的に外来開設となり、その後2年間は平日8時間の診療時間をすべて発熱患者診療に費やしました。

2022年からは内科の方針変更と一部外科系診療科も加わり、月曜日、金曜日は総合診療科、火曜日、水曜日、木曜日は持ち回りでの診療体制となっていました。

COVID19患者の入院診療は呼吸器内科により振り分けがなされ、各科で持ちまわる体制となっており、発熱外来からの入院患者さんのほか、東京都から連日依頼される入院患者さんを7階西病棟、6階東病棟を中心に入院診療が行われました。

2類感染症から5類感染症に指定が変更されたのち、一般外来で新型コロナウイルス感染症患者を診療するようになり、ようやく通常に近い診療体制が組めるようになりました。

現在、総合診療科では火曜日の初診内科当番を低層棟2階外科外来3番で行い、午前11時の受付時間にこだわらず、15時ころまでは通常の受付で診療を行っております。

また、2020年当初から木曜日14時30分から総合診療科の再診外来も運用しております。

入院患者さんの診療は上記の外来、水曜日に行っている救急外来からの入院患者さんを中心に入院診療も行っており、特に専門的な技術の不要な誤嚥性肺炎や単純な急性腎盂腎炎、尿路感染症、不明熱、少ないながらもリウマチ性多発筋痛症や偽痛風などの患者さんも入院治療を行っております。

基本姿勢は断らずに診ること。そして患者さんにとって、ご家族にとって無理のないその後の療養生活、療養施設の選定などをお手伝いしております。

今後、地域の住民の方々に対して、高齢者がどのように弱り、お亡くなりになるかをわかりやすく理解していただく機会などがあれば積極的にお話をしていきたいとも考えています。実診療の中で家族に死が近づいていることをまったく感じることなく生活していて、救急搬送されて初めて自身の家族が人生の終末期にいることを知って、驚愕する方があまりにも多いからです。人間は生き物ですから永遠の命はありません。経済的にも厳しい本邦において、過剰な医療や無理な延命は患者さん本人ばかりか、ご家族の生活を脅かすことにもなります。有限の命に対して、無理のない終演の1シーンを多職種の職員とご家族、ケアマネージャーさんや状況によっては成年後見人や行政の方々とともに穏やかに取りまとめていくこ

とを大事にして診療を行っていかうと考えております。

## 2. 資格・専門医等

部長：山本 武史

専門医：日本救急医学会専門医

指導医：日本救急医学会指導医

その他：厚生労働省認定臨床研修指導医、東京DMA T、日本救急医学会 I C D

## 3. 統計

### 【患者数推移】

(人/日)

	R 3年度	R 4年度	R 5年度
1日平均外来患者数	6.2	7.3	2.5
1日平均入院患者数	0.3	1.1	5.0

### 【症例件数】

(件)

1	誤嚥性肺炎	16
2	急性腎盂腎炎	6
3	尿路感染症	4
4	脱水症	3
5	肺炎	3
6	熱中症	2
7	敗血症	2
8	アナフィラキシー	1
9	うっ血性心不全	1
10	クラウンデンス症候群の疑い	1
11	その他	10

## 6. 脳神経内科

### 【医師（令和5年度在籍）】

部 長：三品 雅洋  
副 部 長：藤澤 洋輔  
医 師：外間 裕之、高橋 康大

#### 1. 1年のあゆみ

2021年4月より東京労災病院脳神経内科に三品雅洋が赴任、日本医科大学脳神経内科から駒井侯太、山本せり夏の2名が派遣され、産業医大の東盛雄政が合流した。2020年に脳神経内科部長がご開業、某大学は医師を引き上げた。一人が脳神経内科に就職したがしばらくして病欠。そこで、独立行政法人労働者健康安全機構有賀理事長より医師の派遣を依頼された。2020年8月、先鋒として三品が選出された。北村山公立病院神経内科・日本医科大学千葉北総病院脳神経センターでは、診療科の新規立ち上げに私は雑兵として参加していた。先輩方のやりようを間近に見た経験が今回の立ち上げに役立った。千葉北総病院での経験から、脳卒中をやるなら脳神経外科協働と常々思っていた。東京労災病院での事前打ち合わせで加藤脳神経外科部長も同じ意見だった。2科で脳卒中センターを構成し、当直や回診・抄読会を一緒にやることになった。

2022年4月、駒井に変わり藤澤洋輔が副部長として就任し、その後は常時専門医が外来にいる状態になった。2022年10月東盛が産業医に転職し3人体制となった。2023年4月森瀬翔哉が赴任し山本が大学に戻られたが、なんと病理解剖率100%達成でのご帰還であった。

公的病院であるため当然COVID-19の診療があり、一時期はICUを除く8つの病棟のうち3つをコロナ病床に転換、400床が289床に削減した状態になった。そうなると呼器内科だけでCOVID-19の診療をするわけにはいかないので、各科で分担した。しかし、呼器内科が作成した刻一刻変わるエビデンスをいち早く導入した診療プロトコルがあり、入院では電子カルテのクリニカルパスがあるため、私たちでも診療できた。発熱外来も、医師3名以上の診療科で分担した。東京労災病院ではNEAR法など検査機器の導入が迅速、PPEも豊富に確保されていて、COVID-19の診断も簡便かつ安全であった。東京労災病院にはECMOがないので重症は転院になったが、治療薬とワクチン普及で重症患者は次第に減った。

2021年7月、看護師・社会福祉士とともに認知症ケアチームを創設した。私たち就任前は、認知症ケア加算対象者の身体抑制は70%程度に行われていたが、50%程度に減少した。また、加算の2023年合計は約2,000万円と私たち赴任前の10倍となり、労働者健康安全機構の32病院でトップの件数・診療報酬となった。入院患者はCOVID-19対応で減少していた時期だが、毎週木曜日の認知症ケア回診は80～100人（全入院患者の約30%）であった…筆者前任の日本医科大学武蔵小杉病院では身体拘束40%程度まで減少したが、東京労災病院ではその後も50%程度のままだった。COVID-19患者で拘束率が高いのではと仮説を立てた。そこで認知症ケアチームは、病棟・呼器内科と協働でCOVID-19入院患者の悉皆データベ-

スを作成し、その中の認知症ケア加算対象患者の調査を始めた。ちょうど教育用データベース作成が労働者健康安全機構における「令和4年度病院機能向上のための研究計画」に採用されたので、そのデータベースを用いて入院サマリー文章内も含めた病名検索をすると、院内発症も含めた対象患者がもれなく選択できた。調査結果から、COVID-19患者で拘束率が高い仮説は否定された。COVID-19患者の認知症ケア加算対象は約20%強、そのうち約70%に頭部画像がなく認知症診断がつけられなかった。そこで、2023年5月より、COVID-19入院時に必ず実施する胸部CTに頭部も加えることになった。

2023年10月森瀬に代わり外間裕之と高橋康大が赴任、再び4人体制となった。藤澤副部長は神経学会指導医の資格を取得、2024年4月より日本神経学会準教育施設から教育施設に昇格した。2024年3月から、アルツハイマー病に対する抗アミロイドβ抗体薬が始まった。

## 2. 資格・専門医等

### 部 長：三品 雅洋

専門医：日本神経学会専門医

専門医：日本神経学会専門医、日本脳卒中学会専門医、日本老年精神医学会専門医、日本内科学会認定内科医、日本核医学会 PET核医学認定医

指導医：日本神経学会指導医、日本脳卒中学会指導医、日本老年精神医学会指導医、日本内科学会指導医

その他：医学博士、日本医師会認定産業医、身体障害者福祉法第15条指定医  
難病指定医、長時間労働医師への面接指導実施医師、脳卒中療養相談士

The Best Doctors in Japan2018-2019

The Best Doctors in Japan2020-2021

The Best Doctors in Japan2024-2025

アルツハイマー病における抗アミロイドβ抗体の投与にあたり必要な事項に関する講習会 受講（令和5年12月）

アミロイド関連画像異常 (ARIA) の概要と対策 受講（令和5年12月）

アミロイド PET 読影講習会 Florbetapir 読影コース修了（令和6年1月）

アミロイド PET 読影講習会 Flutemetamol 読影コース修了（令和6年1月）

### 〈学会役職〉

日本老年精神医学会（理事・評議員・認知症診療技術向上委員長・老年精神医学雑誌編集委員・Psychogeriatrics編集委員会）

日本脳卒中学会（評議員）

日本認知症予防学会（代議員）

**副部長：藤澤 洋輔**

専門医：日本神経学会専門医、日本内科学会認定内科医、日本認知症学会専門医

その他：身体障害者福祉法第15条指定医、難病指定医、

アルツハイマー病における抗アミロイドβ抗体の投与にあたり必要な事項に関する講習会 受講（令和5年12月）

アミロイド関連画像異常 (ARIA) の概要と対策 受講（令和5年12月）

**医師：外間 裕之****3. 業績****〈著書〉**

- 三品雅洋、浦上克哉 編集、認知症診断のための神経所見のとり方、2023、株式会社ワールドプランニング、東京

本邦は高齢化社会を迎え認知症診療のウェイトが増加、臨床医から神経学的所見の再履修のニーズが高まった。日本老年精神医学会の認知症診療技術向上委員会は、活動の一環として、「簡易な神経所見の取り方実践講座」を毎年の学術集会で開催してきた。精神科医だけでなく、手術中心だった脳神経外科医、研究職で現場を離れていた脳神経内科医、在宅医療を始めた内科医など、毎回多数の申込みがあった。神経診察の学習機会に対する学会員の要望にさらに応えるため、学会の準機関誌「老年精神医学雑誌」において「認知症診断のための神経所見のとり方」を連載した。専門家に問診や診察手技を執筆いただき、主な認知症疾患での診察のポイントを掘り下げた。これら25回にわたる連載を、1冊の『認知症診断のための神経所見のとり方』として編んだ。

**〈分担執筆〉**

- 酒巻雅典、三品雅洋：神経診察のツール。三品雅洋、浦上克哉 編集、認知症診断のための神経所見のとり方、2023、pp115~123、株式会社ワールドプランニング、東京
- 三品雅洋：コロナ禍での神経診察。三品雅洋、浦上克哉 編集、認知症診断のための神経所見のとり方、2023、pp115~123、株式会社ワールドプランニング、東京

**〈シンポジウム〉**

- 三品雅洋：シンポジウム6 治療可能な認知症・早期発見と予防へのアプローチ「脳炎・脳症による認知症」第38回秋季日本老年精神医学会大会第38回秋季日本老年精神医学会大会 東京 2023.10.13-14

**〈一般講演〉**

- 「COVID-19 入院患者における認知症ケア加算対象者の割合の変化」  
三品雅洋、藤澤洋輔、森瀬翔哉、河野正和、松村琢磨、柳田香織、若林磨美、原田理恵、長坂真喜子、大森真由美、木須菜月、木村和美  
第12回日本認知症予防学会学術集会 新潟 2023.9.15-17

### 〈市民公開講座〉

- 三品雅洋：認知症と睡眠。東京労災病院区民公開講座 東京 2023.6.24

### 〈教育講演〉

- 三品雅洋：神経学的所見の取り方実践講座（アップグレードコース）「画像の読み方実践講座」。  
第38回秋季日本老年精神医学会大会第38回秋季日本老年精神医学会大会  
東京 2023.10.13-14
- 三品雅洋：心原性脳塞栓の治療と再発予防。  
蒲田医師会学術講演会 脳卒中 Web Seminar 東京 2023.11.21
- 三品雅洋：「早期アルツハイマー病」診断のために神経心理学的検査のおさらい。  
Advanced brain imaging report 東京 2023.11.30

### 〈特別講演〉

- 三品雅洋：アルツハイマー新時代到来での画像診断。  
第66回労働者健康安全機構放射線技師会総会・学術大会 川崎 2023.6.17
- 三品雅洋：パーキンソン病治療の現状について。  
病診連携セミナー～神経変性疾患について～ 松戸 2023.8.3
- 三品雅洋：パーキンソン病治療の考え方－私のサフィナミド錠活用法－。  
京浜 Neuro Seminar 東京 2023.9.25
- 三品雅洋：神経変性疾患での核医学検査の活用法。  
旗の台神経セミナー 東京 2023.10.6
- 三品雅洋：アミロイドPETと疾患修飾薬。  
第11回クリニカルPETフォーラム 東京 2023.12.16
- 三品雅洋：高齢者の不眠症を考える－認知症との関連を中心に－。  
大森蒲田不眠症診療WEBセミナー 東京 2024.2.15
- 三品雅洋：アミロイドPETの役割と意義。認知症診療セミナー 東京 2024.2.27
- 三品雅洋：抗PD薬マネジメントの実際～MAOB阻害薬の役割を中心に～。  
PDトータルマネジメントセミナー in 東葛 柏 2024.3.7

### 〈研究費〉

- 三品雅洋：令和4年度病院機能向上のための研究計画（100万円）

## 4. 統計

## 【患者数推移】

	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度
外来患者数	5,804	10,239	10,150
うち新患者数	1,469	2,287	2,459
入院患者数	214	216	289
認知症ケア加算件数	14,201	26,433	31,709
1日平均人数	39.0	72.4	86.9
拘束率	53.0%	52.2%	50.5%

## 【令和5年度に受診した主要疾患の外来患者数】

1	脳梗塞	350	18	起立性低血圧	13
2	一過性脳虚血発作	287	19	本態性振戦	13
3	片頭痛・緊張型頭痛・群発頭痛	171	20	レヴィ小体型認知症	13
4	アルツハイマー型認知症	142	21	膠原病に伴う神経障害	11
5	良性発作性頭位性眩暈症	129	22	半側顔面攣縮・斜頸	10
6	脊椎病変による神経根・脊髄症	81	23	Guillain - Barré 症候群	10
7	てんかん	81	24	Wernicke 脳症	10
8	血管性認知症	70	25	糖尿病性ニューロパチー	9
9	パーキンソン病	67	26	圧迫性ニューロパチー	8
10	髄膜炎・脳炎	35	27	くも膜下出血	8
11	脳出血	34	28	重症筋無力症	8
12	パーキンソン症候群	33	29	多発性硬化症・視神経脊髄炎	5
13	単ニューロパチー	29	30	脊髄小脳変性症	4
14	神経痛	24	31	慢性炎症性脱髄性	4
15	正常圧水頭症	24		多発ニューロパチー	
16	脳腫瘍	22	32	多発筋炎・皮膚筋炎・封入体筋炎	3
17	慢性硬膜下血腫	22	33	前頭側頭葉変性症	2

## 7. 循環器科

---

### 【医師（令和5年度在籍）】

**部 長**：吉玉 隆  
**第二部長**：浅原 敏之  
**副 部 長**：高亀 則博  
**医 師**：高橋 剛士、中村 文紀、鈴木 裕子

### 1. 1年のあゆみ

循環器科は、部長・吉玉隆（35年目）、部長・浅原敏之（35年目）、副部長・高亀則博（18年目）、医員・小泉貴洋（8年目）、医員・中村文紀（7年目）、専攻医・有上周佑（4年目）の6名体制です。2024年度から小泉、有上医師が加わりました。また、非常勤医師の久次米真吾先生は毎週金曜日にカテーテルアブレーションによる不整脈治療を、8年以上に渡って行っていただいております。

当科のモットーとしては、『断らない医療』です。当たり前と言えばそうなのですが、継続して実践していることに意義があると感じています。

当科の特徴としては、『カテーテル治療を中心とした医療』です。冠動脈をはじめ、下肢の血管、腎動脈、鎖骨下動脈など、脳血管を除くほとんどの血管に対して治療実績があります。疾患としては、急性心筋梗塞をはじめとする虚血性心疾患や下肢の閉塞性動脈硬化症、腎動脈狭窄や深部静脈血栓症などにも積極的にカテーテル治療を行っております。不整脈治療、特に心房細動の治療に対しては積極的にカテーテルアブレーションを行っております。重篤な合併症を起こすことなく年間60件前後の治療を行ってきていることは、地域に質の高い医療を提供できているものと考えております。心不全治療に関しては、多職種間のカンファレンスを通して総合的な観点で治療にあたっております。また、今後、心臓リハビリテーションや緩和医療に対しても介入してゆき、当院で完結する循環器医療の整備を目指して努力して行きます。

### 2. 資格・専門医等

**部 長**：吉玉 隆

専門医：日本内科学会総合内科専門医、日本循環器学会認定循環器専門医

**副 部 長**：高亀 則博

認定医：日本心血管インターベンション治療学会認定医

専門医：日本内科学会総合内科専門医、日本循環器学会専門医

**医 師：高橋 剛士**

認定医：日本心血管インターベンション治療学会認定医

専門医：日本内科学会総合内科専門医、日本循環器学会専門医

**医 師：中村 文紀**

専門医：日本内科学会専門医

**医 師：小泉 貴洋**

専門医：日本内科学会専門医、日本循環器学会専門医

その他：C P A P療法士

**3. 業績****〈論文〉**

Kotoku N, Ninomiya K, Masuda S, O'Leary N, Garg S, Naito M, Miyashita K, Tobe A, Kageyama S, Tsai TY, Revaiah PC, Tu S, Kozuma K, Kawashima H, Ishibashi Y, Nakazawa G, Takahashi K, Okamura T, Miyazaki Y, Tateishi H, Nakamura M † , Kogame N † , Asano T, Nakatani S, Morino Y, Ishida M, Katagiri Y, Ono M, Hara H, Sotomi Y, Tanabe K, Ozaki Y, Muramatsu T, Dijkstra J, Onuma Y, Serruys PW. : Preprocedural physiological assessment of coronary disease patterns to predict haemodynamic outcomes post-PCI. *EuroIntervention* 19 (11) : e891 –e902 , 2023

Saito S † , Hayama H † , Hara H † , Hashimoto G † , Kogame N † , Kang R, Nakamura M † : Successful Percutaneous Closure of Complicated Residual Patent Ductus Arteriosus Shunts Resembling Pig Nostrils Following Second-Time Surgical Treatment. *Circulation journal : official journal of the Japanese Circulation Society* 87 (6) : 853 -853 , 2023

Muramatsu T, Masuda S, Kotoku N, Kozuma K, Kawashima H, Ishibashi Y, Nakazawa G, Takahashi K, Okamura T, Miyazaki Y, Tateishi H, Nakamura M † , Kogame N † , Asano T, Nakatani S, Morino Y, Katagiri Y, Ninomiya K, Kageyama S, Takahashi H, Garg S, Tu S, Tanabe K, Ozaki Y, Serruys W-P, Onuma Y : Prasugrel Monotherapy After Percutaneous Coronary Intervention With Biodegradable-Polymer Platinum-Chromium Everolimus Eluting Stent for Japanese Patients With Chronic Coronary Syndrome (ASET-JAPAN). *Circulation Journal* 87 (6) : 857 -865 , 2023

Saito S, Kogame N, Utsunomiya M, Yazaki Y, Nakamura M : Delayed rupture of superficial femoral arterial aneurysm at the fluoropolymer-based paclitaxel-eluting stent implanted site. Cardiovasc Interv Ther. 2023 Jan;38(1):132-133.

Masuda S, Muramatsu T, Ishibashi Y, Kozuma K, Tanabe K, Nakatani S, Kogame N, Nakamura M, Asano T, Okamura T, Miyazaki Y, Tateishi H, Ozaki Y, Nakazawa G, Morino Y, Katagiri Y, Garg S, Hara H, Ono M, Kawashima H, Lemos PA, Serruys PW, Onuma Y. : Reduced-dose prasugrel monotherapy without aspirin after PCI with the SYNERGY stent in East Asian patients presenting with chronic coronary syndromes or non-ST-elevation acute coronary syndromes: rationale and design of the ASET Japan pilot study. AsiaIntervention. 2023 Mar 15;9(1):39-48.

### 〈発表〉

#### 「Wolverine/ROTA を用いた DCB 前拡張の Tips」

高亀則博†：第 31 回日本心血管インターベンション治療学会総会、  
福岡市、2023.8

#### 「診断と治療に苦慮した再発性心膜炎の 1 例」

有上周佑†、矢崎義行†、鳥居俊介†、林典行†、飯島雷輔†、原英彦†、諸井雅男†  
第 694 回日本内科学会関東地方会 東京 2024.3

#### 「WATCHMAN デバイス留置後の心臓内視鏡による内皮化の観察」

有上周佑†、橋本剛†、田口慎太郎†、中村飛鳥†、井出志穂†、鳥居俊介†、  
清水貴之†、葉山裕真†、豊田康豪†、牧野健治†、中村啓二郎†、原英彦†、  
諸井雅男†、中村正人、† 第 271 回日本循環器学会関東甲信越地方会、  
東京 2024.2

#### 「デバイス選択や留置後のアセスメントに時間をかけたが術直後にデバイスが脱落した一例」

有上周佑†、橋本剛†、中村飛鳥†、井出志穂†、葉山裕真†、牧野健治、佐藤学†、  
能戸辰徳†、矢崎義行†、原英彦†  
ストラクチャークラブ・ジャパンライブデモンストレーション 2023  
東京 2023.11

## 4. 統計

## 【患者数推移】

(人/日)

	R3年度	R4年度	R5年度
1日平均外来患者数	57.7	58.9	58.0
1日平均入院患者数	21.2	26.3	23.8

## 【症例件数】

(件)

1	うっ血性心不全	146
2	狭心症	88
3	下肢閉塞性動脈硬化症	77
4	発作性心房細動	34
5	COVID-19	27
6	不安定狭心症	19
7	狭心症の疑い	16
8	誤嚥性肺炎	15
9	心房細動	15
10	尿路感染症	13
11	その他	225

## 【検査件数】

(件)

心臓カテーテル検査	188
冠動脈インターベンション	87
末梢血管インターベンション	111
ペースメーカー新規植え込み術	18
アブレーション（頻脈性不整脈に対する高周波治療）	59
心エコー図検査	2,171
ホルター型心電図	474

## 8. 精神科

---

### 【医師（令和5年度在籍）】

部 長：山田 智子

#### 1. 1年のあゆみ

R5年度の外来患者数は、370人/月で、入院病棟併診がその1割を占めています。日常診療は、常勤医1名、非常勤1名体制で行っています。疾患としては、神経症とうつ病がほぼ同数で大部分を占め、臨床病名としての統合失調症はかなり少ない割合となっています。

外来診療では、主に近隣の方々の身体的な不安や不眠やご家族の悩みなど、日常的なご相談を幅広くお受けしています。抑うつや不眠でお悩みの方の中には、これまで既に睡眠導入剤や抗うつ薬による薬物療法を受けていて効果が不十分であるという方も多く、そのような方には、抑うつ気分や不安を生じさせているストレスそのもの解決や対応の工夫に焦点をあてたり、睡眠覚醒リズムを整えることで、薬の効果を十分に引き出す下地をつくることを行っています。また、必要な維持期が過ぎれば減量のタイミングを計り、必要最小限の薬物療法を心がけています。睡眠は、「寝る」だけでなく、「質のいい睡眠」をとることが、健康にとっても大切なことと考えています。

また、労災病院の役割として勤労者の方にも多く来院していただき、ストレス関連疾患や、うつ病、適応障害、不安症など、通常業務の些細なストレスから、職場全体にかかわる悩みまで、対応させていただいています。コロナの影響による急速な在宅勤務導入により、自宅でのパソコン業務に伴う不安や孤独、時間管理の難しさなどに戸惑いが生じたり、昨今の働き方改革で、残業時間やパワハラなどが問題となったりしています。症状の改善のみでなく、職場のあり方を見直して、それにどう対処していくかを含めて考えていく必要があります。そのため、休職や復職等の際には、当院の治療就労両立支援センタースタッフと協働し、心理検査なども施行しながら手厚くサポート支援させていただいています。

入院されている方の併診では、入院中に伴う心理的な問題に、主科と連携をとりながら対応させていただきます。また疾病や治療に伴う心身の苦痛については、多職種でサポートする緩和ケアチームのメンバーとしても活動しています。

その他の活動として、東京産業保険総合支援センターメンタルヘルス対策支援アドバイザー、大田区立福祉園・福祉作業所、糀谷保健所の相談窓口もお手伝いさせていただいています。

## 2. 資格・専門医等

部長：山田 智子

専門医：日本認知症学会専門医  
日本精神神経学会専門医  
日本総合病院精神医学会専門医

指導医：日本認知症学会指導医  
日本精神神経学会指導医  
日本総合病院精神医学会指導医

その他：精神保健指定医  
日本医師会認定産業医

## 3. 統計

【患者数推移】

(人/日)

	R3年度	R4年度	R5年度
1日平均外来患者数	20.9	20.8	21.5
1日平均入院患者数	0.0	0.0	0.0

## 9. 小児科

---

### 【医師（令和5年度在籍）】

部 長：直井 和之

#### 1. 1年のあゆみ

前任の鎌田部長の退職にあたり、2018年4月より東邦大学医療センター大森病院小児科より直井が赴任してまいりました。2019年11月までは常勤医師2名体制で診療を行ってまいりましたが、同年12月から常勤医師1名体制で、平日の午前・午後ともに外来診療を行っております。

診療内容は、感染症、アレルギー疾患、呼吸器疾患、腎疾患などに対する一般診療および乳児健診、予防接種、育児相談など幅広く対応しております。2020年4月より小児アレルギー専門医を迎え、食物アレルギーの負荷試験やアレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法等を外来にて積極的に行っております。また、外来診療可能な学校検尿異常、夜尿症等の腎臓疾患についても順天堂大学より医師を派遣していただき、専門外来を行っております。神経疾患や心疾患など専門性の高い疾患に対しては、当院で可能な検査（CT、MRI、超音波など）を効率よく行ったうえで適時高次医療機関へご紹介させていただいております。

また、眼や耳・鼻、皮膚等に関してより専門的な診察が必要な際は、総合病院である強みを活かして、各科と協力して診療しております。また、新型コロナウイルス感染症の流行以降、発熱を伴う感染症の可能性のあるお子さんの診療を別室にて行っており、院内感染予防も努めております。2022年2月で当院の産科診療は終了してしまいましたが、今まで同様出生前の育児相談等を行うペリネイタルビジットや他院でご出生されたお子さんたちの出生直後からの診療（臍肉芽の処置やシナジス注射等）は引き続き行っております。

お子さんのご病気、子育て等、普段の生活の中で気になることがございましたらご相談ください。お子さんとそのご家族に親しみと信頼を持たれるような小児診療を心掛けてまいります。

#### 2. 資格・専門医等

部 長：直井 和之

認定医：日本小児科医会地域総合小児医療認定医

専門医：日本小児科学会小児科専門医

指導医：日本小児科学会小児科指導医

その他：日本小児科医会子どもの心相談医

厚生労働省認定臨床研修指導医

### 3. 統計

【患者数推移】 (人/日)

	R 3年度	R 4年度	R 5年度
1日平均外来患者数	10.4	9.9	10.3
1日平均入院患者数	0.1	0.0	0.0

外来：総患者数 2,505 人、1日平均患者数 10.3 人

## 10. 消化器外科

---

### 【医師（令和5年度在籍）】

部 長：小林 隆  
第二部長：神山 博彦  
第三部長：秀野 泰隆  
副 部 長：野原 茂男  
医 師：安城 芳紀

### 1. 1年のあゆみ

50代のベテラン2名と、脂の乗った30代・40代の中堅3名からなる5名の消化器外科医が、常にOne Teamでフットワーク軽く、小回りが利く職場で多職種一丸となり患者さんファーストの診療を行っている。

2023年の当科における新たな出来事は、①腹腔鏡下肝切除術の施設認定の取得と②ICG蛍光法を用いた蛍光ガイド下手術の導入であった。

### 当科の治療方針

- 患者さんにとって低侵襲な腹腔鏡手術を積極的に導入することで、胃・大腸手術では6割以上、胆嚢・虫垂・ヘルニア手術では8割以上の症例で腹腔鏡手術を行っている。2023年からは腹腔鏡下肝切除術も導入した。
- 難易度の高い肝臓手術では3D画像解析ソフトを用いた術前シミュレーションを行うことで、より安全な肝臓手術を行っている。
- ICG蛍光法を用いた蛍光ガイド下手術により、より安全で合併症の少ない胃・大腸・肝臓・胆嚢の手術を行っている。
- 局所再発率が高く、根治手術が困難であることが多い進行直腸癌に対しては放射線治療科と協力して術前化学放射線治療を行うことで、より根治性の高い手術を目指している。このようにわれわれ消化器外科では、先端技術を取り入れながら患者さんの病状・病態に応じた術前・術後化学療法や放射線治療も含む集学的治療を心掛けており、多職種からなるカンファランスを通して、常に職員が一丸となって患者さん・ご家族に最善の治療を提供できるよう努めている。

### 当科が扱っている主な疾患

- 悪性疾患：胃癌・大腸癌、原発性・転移性肝癌、膵臓癌、胆道・胆管癌、他
- 良性疾患：胆石・胆のう炎、鼠径・腹壁ヘルニア、他
- 救急疾患：消化管穿孔、急性虫垂炎、腸閉塞（イレウス）、他  
救急疾患には24時間365日対応している。

## 2. 資格・専門医等

**部 長：小林 隆**

医学博士

専門医：外科および消化器外科専門医

指導医：外科および消化器外科指導医、肝胆膵外科高度技能指導医

**第二部長：神山 博彦**

医学博士

専門医：外科および消化器外科専門医、大腸肛門病専門医

指導医：外科および消化器外科指導医、大腸肛門病指導医

**第三部長：秀野 泰隆**

医学博士

専門医：外科および消化器外科専門医、消化管学会胃腸科専門医

指導医：外科および消化器外科指導医

**副 部 長：野原 茂男**

医学博士

専門医：外科および消化器外科専門医

指導医：外科および消化器外科指導医

**医 師：安城 芳紀**

## 3. 業績

「全国労災病院での消化器癌患者に対する治療と仕事の両立支援の取り組み」

神山博彦、安城芳城、野原茂男、秀野泰隆、小林隆、杉山政則

第109日本消化器病学会総会 長崎 2023.4.6-8

「全国労災病院での癌患者に対する仕事と治療の両立支援の取り組み」

神山博彦、安城芳城、野原茂男、秀野泰隆、小林隆、杉山政則

第123回日本外科学会定期学術集会 東京 2023.4.27-29

「全国の労災病院における消化器がん患者に対する治療と仕事の両立支援の取り組み」

神山博彦、安城芳城、野原茂男、秀野泰隆、小林隆、杉山政則

第78回日本消化器外科学会総会 函館 2023.7.12-14

「全国の労災病院における大腸癌患者に対する治療と仕事の両立支援の取り組み」

神山博彦、安城芳城、野原茂男、秀野泰隆、小林隆、杉山政則

第78回日本大腸肛門病学会学術集会 熊本 2023.11.10-11

## 4. 統計

【患者数推移】 (人/日)

	R3年度	R4年度	R5年度
1日平均外来患者数	17.4	15.3	15.3
1日平均入院患者数	5.7	5.5	5.2

【症例件数】 (件)

1	直腸癌	72
2	大腸癌	64
3	鼠径ヘルニア	52
4	大腸ポリープ	29
5	胆のう炎	26
6	急性虫垂炎	22
7	癒着性イレウス	16
8	胆のう結石症	15
9	胃体部癌	14
10	膀胱癌	14
11	その他	129

## 消化器外科手術症例数の推移

主に悪性疾患	R 2 1～12月	R 3 1～12月	R 4 1～12月	R 5 1～12月
胃	12	17	21	18
うち腹腔鏡手術	8	12	14	10
大腸・直腸	42	54	65	51
うち腹腔鏡手術	30	34	40	41
肝胆膵	15	9	12	21
うち腹腔鏡手術	2	0	1	2
合計	69	80	98	90
うち腹腔鏡手術	40	46	55	53

主に良性疾患	R 2 1～12月	R 3 1～12月	R 4 1～12月	R 5 1～12月
胆摘	37	39	43	57
うち腹腔鏡手術	30	37	38	53
虫垂	16	28	24	25
うち腹腔鏡手術	13	26	23	24
鼠径ヘルニア TAPP	33 15	28 9	49 35	53 35
それ以外のヘルニア	9	12	8	8
うち腹腔鏡手術	6	2	8	5
イレウス	9	17	10	11
うち腹腔鏡手術	3	2	1	2
その他	28	25	25	24
うち腹腔鏡手術	11	3	3	1
合計	132	149	159	178
うち腹腔鏡手術	78	69	108	115

全合計（重複あり）	R 2 1～12月 201（200人）	R 3 1～12月 229（223人）	R 4 1～12月 257（252人）	R 5 1～12月 268（264人）
うち腹腔鏡手術	118（58.7%）	115（50.2%）	163（64.7%）	173（65.5%）
うち緊急手術	40（20.0%）	66（29.6%）	68（27.0%）	85（32.2%）

## 11. 呼吸器外科

---

### 【医師（令和5年度在籍）】

部 長：穴見 洋一

副 部 長：牧野 崇

#### 1. 1年のあゆみ

平成22年10月、順天堂大学呼吸器外科から穴見医師が当院に赴任しました。当時の野村院長、竹田外科部長のご尽力により、院内の独立科として呼吸器外科が設立されました。対外的には外科の一部門という位置でした。

令和元年7月、東邦大学呼吸器外科から牧野医師が招聘されました。これに伴い、同年7月呼吸器外科が標榜科として独立しました。

呼吸器外科医2名が常勤する体制となり、それまでよりも多くの疾患に対応できるようになりました。

令和2年から4年にかけてはCOVID-19感染症の世界的なパンデミックのあおりを受けて、症例数の減少をみましたが、恐れていたほどの大きな減少はありませんでした。また、令和5年度にはかなり元の水準に回復しております。

下記の【呼吸器外科の診療実績統計】をご参照ください。

これはひとえに近隣のクリニック、医院および病院の先生方が当科に紹介していただいたおかげです。あらためて、御礼申し上げます。

これからもご期待に副うべく研鑽を重ねてまいります。

手術件数では肺癌症例が多いですが、令和3年以降減少傾向にあります。COVID-19感染症パンデミックによる受診控えが影響したものと推測します。

それと逆に膿胸症例が令和3年以降、増加しました。これもCOVID-19感染症蔓延により施設等で高齢者の介護に手が回らなくなり、十分なケアや状態変化が見逃されていた可能性が推測されます。

昨今ではCOVID-19感染症も落ち着き、その対応にも慣れてきたと思われます。これまで受診や検診を控えていた方々の受診が増えると予想されます。肺・胸部に異常を疑われたら、遠慮なく当科にご紹介ください。

## 2. 資格・専門医等

部長：穴見 洋一

医学博士

専門医：日本外科学会外科専門医

日本呼吸器外科学会呼吸器外科専門医

指導医：厚生労働省認定臨床研修指導医

その他：肺がん CT 検診認定医取得

副部長：牧野 崇

専門医：日本外科学会外科専門医

日本呼吸器外科学会呼吸器外科専門医

指導医：日本外科学会外科指導医

その他：日本癌治療認定医機構がん治療認定医

がん診療に携わる緩和ケア研修修了

全日本病院協会看護師特定行為研修指導者

呼吸器外科評議員

臨床研修協議会プログラム責任者

## 3. 業績

〈論文〉

Can a stapling device with bioabsorbable polyglycolic acid felt reduce intraoperative air leak?

Makino T, Matsumura T, Kono M, Anami Y. *J Thorac Dis.* 2024 Feb 29;16(2):893-900. doi: 10.21037/jtd-23-1352. Epub 2024 Feb 22. PMID: 3850505

Acute exacerbation of pleuroparenchymal fibroelastosis with lower lobe usual interstitial pneumonia: An autopsy case.

Matsumura T, Makino T, Yagisawa M, Ishige M, Akimoto Y, Ito K, Anami Y, Kono M. *Respir Med Case Rep.* 2023 Apr 7;43:101846. doi: 10.1016/j.rmcr.2023.101846. eCollection 2023. PMID: 37077237

Perioperative Management of Congenital Epidermolysis Bullosa.

Yukawa H, Makino T, Hayashi K, Date H, Honda N, Anami Y. *Ann Thorac Surg.* 2023 Jul;116(1):e1-e4. doi: 10.1016/j.athoracsur.2022.06.045. Epub 2022 Jul 19. PMID: 35863401

〈発表〉

「喫煙者への動機づけ面接を活用した数分間の関わりによる、禁煙の関心度向上の変化」

上田 恵（労働者健康安全機構東京労災病院 治療就労両立支援センター予防医療部）、

老谷 るり子、平澤 芳恵、佐藤 さとみ、牧野 崇、谷 理恵、林 健

第71回日本職業・災害医学会学術大会 アクロス福岡 2023.11.22

「PGAフェルト付き自動縫合器は肺切除術における術中エアリークを減少させることができるか？」

牧野 崇（労働者健康安全機構東京労災病院 呼吸器外科）、松村 琢磨、河野 正和、

穴見 洋一

第40回日本呼吸器外科学会学術集会 新潟市・朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

#### 4. 呼吸器外科の診療実績統計

##### 【患者数推移】

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
外来患者延数	614	1,186	1,381	1,328	1,258
入院患者延数	1,234	1,346	1,439	1,248	1,588

(人/日)

	R3年度	R4年度	R5年度
1日平均外来患者数	46.7	45.8	41.3
1日平均入院患者数	3.9	3.4	4.3

##### 【症例件数】

(件)

1	肺癌	35
2	自然気胸	18
3	膿胸	13
4	COVID-19	10
5	外傷性血気胸	4
6	緊張性気胸	3
7	肺炎	2
8	月経随伴性気胸	2
9	萎縮性胃炎	1
10	縦隔気腫	1
11	その他	8

## 【手術件数】

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
肺癌 (カルチノイド含む)	38	30	41	29	27
転移性 肺腫瘍	2	3	3	5	6
自然気胸	14	19	13	18	21
膿胸	3	2	6	5	8
縦郭腫瘍	5	3	1	2	2
炎症性腫瘍 / 疾患	6	9	4	4	5
外傷	0	2	1	0	0
良性腫瘍	0	1	1	0	0
その他	6	4	2	1	3
合計	74	73	72	64	72

## 12. 乳腺外科

---

### 【医師（令和5年度在籍）】

副部長：金田 陽子

#### 1. 1年のあゆみ

当院では2020年10月より常勤の乳腺専門医による診療を開始しています。対象疾患は、乳がんの他、線維腺腫・乳腺症に代表される良性疾患など多岐に渡り、診断から治療、緩和医療まで全てを担当します。

乳がん治療はガイドライン・科学的根拠に基づき、手術に加え薬物療法・放射線療法など集学的治療を行います。医師のみならず、薬剤師、看護師など様々な職種が力を合わせ、チーム医療を行います。治療はもちろんですが、精神面・社会的背景などにも配慮した診療を行って参ります。

乳がん治療検診も積極的に取り入れ、大田区乳がん検診の受け入れ及び自費検診の院内体制整備を行いました。2023年4月にマンモグラフィ装置が一新され、大田区で唯一の3Dマンモグラフィ実施可能施設となりました。2024年4月から3Dマンモグラフィ含めた自費検診も可能となっており、予防医学にも尽力しています。

検診から要精査、治療まで全てを院内で完結でき、診断確定後1か月以内でのスピーディーな治療導入を行っています。2021年には乳癌学会関連施設を取得しており、大病院と遜色ない医療提供が可能です。

また2023年4月に遺伝性腫瘍専門医を取得し、乳がん発症リスクが上昇する遺伝性乳癌卵巣癌症候群のみならず、保険収載されているリンチ症候群・多発性内分泌腫瘍症2型の検査対応も行っています【検査には一定の条件が必要です】。検査の結果、必要に応じて遺伝カウンセリングを行い、家系員の遺伝カウンセリングや検査については専門施設にご紹介しています。

#### 2. 資格・専門医等

副部長：金田陽子

認定医：日本がん治療認定医機構がん治療認定医、検診マンモグラフィ読影認定医

専門医：日本外科学会外科専門医、日本乳癌学会乳腺専門医、  
日本遺伝性腫瘍学会専門医

指導医：日本乳癌学会乳腺指導医、

その他：乳がん検診超音波検査実施・判定医師、厚生労働省認定臨床研修 指導医、がん診療に携わる緩和ケア講習会修了

### 3. 業績

「当院における遺伝性乳癌卵巣癌症候群 (HBOC) に対する取り組み、現状と課題」

金田陽子、中村清吾、犬塚真由子 第31回日本乳癌学会学術総会

横浜 2023.6.29-7.1

「トラスツズマブ・デルクステカン (T-DXd) が奏効した乳癌骨髄癌症の1例」

金田陽子 第19回日本乳癌学会関東地方会 大宮 2023.12.2

### 4. 統計

#### 【患者数推移】

(人/日)

	R3年度	R4年度	R5年度
1日平均外来患者数	6.9	6.8	6.4
1日平均入院患者数	1.2	1.6	0.7

#### 【手術件数】

R3年度	乳癌	27乳房 27名	
		温存	17
		全摘	12
		センチネルリンパ節生検	11
		腋窩郭清術	5
	良性	7	
	再発その他	2	
R4年度	乳癌	26乳房 26名	
		温存	11
		全摘	15
		センチネルリンパ節生検	13
		腋窩郭清術	5
	良性	4	
	再発その他	1	
R5年度	乳癌	19乳房 19名	
		温存	5
		全摘	14
		センチネルリンパ節生検	13
		腋窩郭清術	1
	良性	5	
	再発その他	2	

## 13. 整形外科

### 【医師（令和5年度在籍）】

部長(事)：杉山 政則

第二部長：平澤 英幸

第三部長：漆原 誠

副部長：浅沼 雄太

医師：井下田 有芳、後藤 賢司、熊谷 圭一郎、石塚 裕平、山本 悠矢

### 1. 1年のあゆみ

整形外科は常勤医師9名で、全員が整形外科専門医です。手指・肘・肩や股・膝など手足の怪我や病気から腰痛などの脊椎疾患の急性期から慢性期に至る治療まで高い専門性と経験をもって“常に患者さんに寄り添う治療”を第一に診療を行っております。

○**低侵襲の手術**：当科では、関節鏡視下手術や小切開手術を積極的に行なっております。関節鏡を用いた膝・肩・手関節疾患に対する鏡視下手術・靭帯再建手術、手の腱鞘炎や手根管症候群に対する低侵襲手術のために開発した専用メスや手術機器による手術、小切開による股関節手術、人工関節置換術に関してもこれまで広く行われていた膝・股関節以外にも肩・肘・手指に対する人工関節手術の経験も豊富です。患者さんの負担軽減と入院期間の短縮に努力しております。

○**外傷一般**：整形外科の扱う疾患の半数以上は外傷です。労災事故、スポーツ・交通外傷など、小児から合併症のある高齢者の方まで、救急センターを通じて昼夜問わず対応しています。また入院・手術を行った方も地域包括ケア病棟により、早期に自宅へ退院できるように努力しております。

○**疾患**：近年高齢化に伴い変形性関節症による手足膝の病気や骨粗鬆症による手・肩・股関節や背骨の外傷が増加しています。変形性関節症による股関節・膝関節障害ではまず消炎鎮痛剤・リハビリ・注射など保存的治療を行いますが、日常生活にも支障がある方にはPRP療法などの再生医療や骨切り術・人工関節置換術等の手術を行っております。人工関節置換術については、ホームページをご覧ください。

肘や肩のスポーツ外傷には、関節鏡視下手術が一般的となりました。これにより早期のスポーツ・社会復帰が可能となりました。

○**手や肘の外傷・リウマチ疾患**：手指、手関節、肘関節、腕神経叢などの上肢全般の外傷・疾患については手外科センターにてご相談ください。幅広い治療が可能です。なお当院は、平成20年度より日本手外科学会認定の研修施設になっています。

関節リウマチでは、手・肘の滑膜切除術、手の腱手術、人工股関節置換術、人工膝関節置換術、人工肘関節置換術などの手術も少なくありません。

○**脊椎・脊髄疾患**：頸椎や腰椎疾患（頸椎症性脊髄症、腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症など）には除痛・麻痺改善例が多くあります。手術は頸椎脊柱管拡大術、腰椎開窓術

などが一般的ですが、適応がある場合 instrumentation による脊椎固定術を行い早期離床、早期社会復帰を目指しています。

これからもたくさんの方の診断・検査・治療・その後の社会復帰までサポートしていきます。

## 2. 資格・専門医等

### 第二部長：平澤 英幸

- 認定医：日本整形外科学会認定リウマチ医
- 日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医
- 日本整形外科学会認定スポーツ医
- 日本骨粗鬆症学会認定医
- 専門医：日本整形外科学会認定専門医
- 日本手外科学会認定専門医
- 指導医：日本手外科学会専門研修指導医
- その他：厚生労働省認定臨床研修指導医

### 第三部長：漆原 誠

- 専門医：日本整形外科学会整形外科専門医
- 日本脊椎外科学会脊椎脊髄外科
- 指導医：日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医

### 副部長：浅沼 雄太

- その他：厚生労働省認定臨床研修指導医
- 日本医師会認定産業医

### 医 師：井下田 有芳

- 専門医：日本手外科学会専門医
- 日本整形外科学会整形外科専門医

### 医 師：後藤 賢司

- 専門医：日本整形外科学会整形外科専門医
- 手外科専門医

### 医 師：熊谷 圭一郎

- 認定医：日本骨粗鬆症学会認定医
- 専門医：日本整形外科学会認定整形外科専門医

### 3. 統計

#### 【患者数推移】

(人/日)

	R3年度	R4年度	R5年度
1日平均外来患者数	100.2	99.0	83.0
1日平均入院患者数	51.2	55.9	43.2

#### 【症例件数】

(件)

1	大腿骨転子部骨折	53
2	大腿骨頸部骨折	51
3	腰部脊柱管狭窄症	34
4	橈骨遠位端骨折	33
5	変形性膝関節症	29
6	上腕骨骨折	27
7	変形性股関節症	23
8	腰椎圧迫骨折	16
9	腰椎椎間板ヘルニア	12
10	肘頭骨折	10
11	その他	241

### 4. 令和6年度の体制

現在、（関東労災病院・横浜労災病院・日本医科大学病院附属病院より応援医師による）  
外来診療のみ行っています。

令和7年より入院診療を再開します。

## 14. 形成外科・美容外科

### 【医師（令和5年度在籍）】

医 師：藤橋 政堯

#### 1. 1年のあゆみ

形成外科は2021年より診療科長1人体制に変更となった。現職は2024年4月より就任した。現在形成外科では主に局所麻酔下での手術を行っている。疾患分類としては良性腫瘍が最も多く、その他眼瞼下垂症手術や外傷の対応をメインに行っている。

現在は症例数の増加を目的として外来枠の拡大を行い、火曜日、水曜日、金曜日の午前午後で外来診療を行っている。

#### 2. 資格・専門医等

医 師：藤橋 政堯

専門医：日本形成外科学会専門医

#### 3. 統計

##### 【患者数推移】

(人/日)

	R3年度	R4年度	R5年度
1日平均外来患者数	100.2	99.0	83.0
1日平均入院患者数	9.7	7.0	5.6

##### 【診療実績（令和5年度）】

(人)

1日平均入院患者数	5.6
令和5年度入院患者数	30

##### 【症例件数】

(件)

1	眼瞼下垂症	21	6	殿部毛巣洞	1
2	後頭部皮下腫瘍	1	7	背部第3度熱傷	1
3	手背有棘細胞癌	1	8	鼻骨骨折	1
4	上眼瞼汗腺腫	1	9	頬骨骨折	1
5	第1趾陷入爪	1	10	下眼瞼睫毛内反症	1

**【手術件数（令和5年度）】**

（件）

外傷		計 38	黄色腫		
熱傷		2		骨腫	1
軟部組織損傷	頭部	1		異所性蒙古斑	3
	顔面	15	その他の皮膚腫瘍		
	上肢	9	悪性腫瘍	BCC	3
	下肢	6		切除後二次再建	3
顔面骨骨折	鼻骨骨折	2	瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド		
	頬骨骨折	2		瘢痕拘縮	2
	眼窩底骨折	1		ケロイド	2
先天異常		計 1	難治性潰瘍		
	臍ヘルニア	1	褥瘡		
腫瘍		計 129	その他の潰瘍		
良性腫瘍	粉瘤	40	炎症・変性疾患		
	母斑細胞母斑	18	毛巣洞		
	脂肪種	2	眼瞼内反症		
	脂漏性角化症	12	美容（手術）		
	石灰化上皮腫	1	その他		
	軟性繊維腫	3			
	乳児血管腫	11			
	静脈奇形	39			
	扁平母斑	3			
			計 8		
			計 2		
			計 6		
			計 0		
			計 5		

## 15. 脳神経外科

### 【医師（令和5年度在籍）】

部 長：加藤 宏一

医 師：東園 和也、中村 友宣、市川 綜一郎

### 1. 1年のあゆみ

脳神経外科は昭和大学が研修基幹病院となっており医師が派遣されています。2023年7月に3人体制から4人体制へと増員となりました。派遣されてくる医師は皆若く学年も近いため、お互い刺激になっているようです。開頭手術、血管内治療の両方を習得しようと日々励んでいます。血管内治療はデバイスや治療法が新しくなっている領域ですが、脳動脈瘤のコイル塞栓術はフローダイバーターステント治療に変わってきています。また、東園先生が脳神経外科専門医試験に合格しました。1月の能登半島地震では、加藤が東京労災病院DMAT隊として医療支援に行きました。

コロナの時期は受け入れ制限などで患者が減っていましたが、コロナの5類感染症移行後は患者数も戻ってきています。脳神経内科と一緒に24時間365日脳卒中救急も続けています。土日は昭和大学と東京女子医科大学から当直の応援をいただいています。急性期脳梗塞はtPAと血栓回収療法、くも膜下出血はクリッピング firstで夜間、土日も緊急手術をしています。年間の3/4は時間外で、緊急手術には当直者以外に待機者も必要です。2024年から医師の働き方改革が本格化し、今までのような使命感のみでの対応は見直さなければなりません。全国的に脳神経外科医も減少しており、脳卒中医療の輪番制や集約という話も出ていますが、緊急手術で救急車受け入れをストップするとすぐに他の受け入れ先が必要になります。いろいろな意見が出ているところですが、数年以内に二次医療圏ごとの集約化が現実になるかもしれないため、脳卒中、脳疾患に強い病院として存在していけるよう努めてまいります。（文責 加藤宏一）

### 【人事異動】

令和5年4～6月 廣瀬瑛介、7月に昭和大学病院へ異動

7月 市川綜一郎 着任

12月 長坂卓也 都立神経病院へ異動

中村友宣 着任

令和6年 3月 東園和也 昭和大学北部病院へ異動

### 【認定施設】

日本脳卒中学会認定一次脳卒中センター、日本脳卒中学会認定研修教育施設、  
日本脳神経血管内治療学会認定研修施設

## 2. 資格・専門医等

**部長：加藤 宏一**

医学博士

専門医：日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会専門医、  
日本頭痛学会専門医、日本抗加齢医学会専門医

指導医：日本脳神経外科学会指導医、日本脳神経血管内治療学会指導医  
日本脳卒中の外科学会技術指導医、労災補償指導医

その他：日本医師会認定産業医、日本 DMAT 隊員統括 DMAT、  
エマルゴ国際上級インストラクター、  
社会保険診療報酬請求書審査委員会審査委員  
身体障害者福祉法第 15 条指定医、厚生労働省認定臨床研修指導医

**医師：東園 和也**

専門医：日本脳神経外科学会専門医

## 3. 業績

〈論文〉

「医療機関職員における頭痛の実態調査」

加藤宏一

日本頭痛学会誌 第 49 巻 584—589, 2023

「脳卒中患者に対する「治療と仕事の両立支援」の検討」

加藤 宏一、佐藤さとみ、神山博彦、柴岡三智、杉山政則

日職災医誌, 71 : 75 — 80, 2023

〈学会発表〉

「脳卒中患者への「治療と仕事の両立支援」の対応と課題」

加藤宏一、市川綜一郎、長坂卓也、東園和也、佐藤さとみ、新明綾乃、平澤芳恵、  
篠崎友詩、神山博彦、杉山政則

日本脳神経外科学会 第 82 回学術総会 パシフィコ横浜 2023.10.26-28

「急性期脳梗塞再開通療法に要した追加治療の検討」

加藤宏一、市川綜一郎、長坂卓也、東園和也、水谷 徹

第 39 回日本脳神経血管内治療学会学術集会 国立京都国際会館  
2023.11.23-25

「頭部外傷の初期治療と社会復帰における高次脳機能障害の課題」

加藤宏一

「頭部外傷による高次脳機能障害の評価と社会復帰における課題」 シンポジウム

日本賠償科学会第82回研究会 東京都医師会館 2023.12.2

「優先順位をつけた災害対策マニュアルの策定」

加藤宏一、渡辺卓己、末永直美、沼端千春、渡邊佳昭

第71回日本職業・災害医学会学術集会 アクロス福岡 2023.12.9-10

「高次脳機能障害により復職後に異動、退職となった両立支援介入例の検討」

加藤宏一、市川綜一郎、長坂卓也、東園和也、佐藤さとみ、新明綾乃、平澤芳恵、

篠崎友詩、神山博彦、杉山政則 第71回日本職業・災害医学会学術集会

アクロス福岡 2023.12.9-10

「優先順位をつけた災害対策マニュアルと災害対応の策定」

加藤宏一、東園和也、中村友宣、市川綜一郎

第29回日本脳神経外科救急学会 東京ステーションコンファレンス 2024.2.2-3

「頭部外傷の初期診断と社会復帰における高次脳機能障害の課題」

加藤宏一、市川綜一郎、中村友宣、東園和也、佐藤さとみ、新明綾乃、平澤芳恵、

篠崎友詩、神山博彦、杉山政則 第29回日本脳神経外科救急学会

東京ステーションコンファレンス 2024.2.2-3

「脳卒中後高次機能障害による「治療と仕事の両立支援」での課題」

加藤宏一、市川綜一郎、中村友宣、東園和也、佐藤さとみ、新明綾乃、平澤芳恵、

篠崎友詩、神山博彦、杉山政則 STROKE2024 パシフィコ横浜

2024.3.7-9

「液体塞栓物質注入後の hybrid type マイクロカテーテル断裂時の対応」

市川綜一郎

日本脳神経外科学会 第82回学術総会 パシフィコ横浜 2023.10.26-28

## 4. 統計

### 【患者数推移】

(人/日)

	R3年度	R4年度	R5年度
1日平均外来患者数	20.9	22.4	21.9
1日平均入院患者数	15.7	22.3	18.0

### 【症例件数】

(件)

1	慢性硬膜下血腫	27
2	急性硬膜下血腫	22
3	多発性脳梗塞	21
4	アテローム血栓性脳梗塞	19
5	心原性脳塞栓症	17
6	内頸動脈狭窄症	14
7	ラクナ梗塞	12
8	末梢性めまい症	11
9	視床出血	10
10	COVID-19	9
11	その他	170

### 【手術件数（令和5年度）】

疾患・手術	件数	疾患・手術	件数
慢性硬膜下血腫 穿頭血腫除去	38	水頭症 髄液シャント術	5
頸動脈ステント留置術	14	経皮的血管形成術	3
脳梗塞急性期再開通療法	12	脳動脈瘤コイル塞栓術（未破裂）	2
脳動脈瘤クリッピング（破裂）	9	脳動脈瘤コイル塞栓術（破裂）	2
急性硬膜下・外血腫 開頭血腫除去	9	脳動静脈奇形 塞栓術	2
脳出血 脳室ドレナージ	8	脳動脈瘤クリッピング（未破裂）	1
脳腫瘍 摘出術	6	脳動静脈奇形 摘出術	1
頭蓋骨形成術	6	硬膜動静脈瘻塞栓術	1
脳動脈瘤フローダイバーター治療	5	脳腫瘍 血管塞栓術	1
頭蓋外内血管バイパス術	5		

## 5. 令和6年度の体制

令和6年度より院長 森田明夫が加わり、複雑な脳腫瘍の手術を積極的に行っています。

## 16. 皮膚科

### 【医師（令和5年度在籍）】

部長(兼)：林 健

医 師：今井 俊輔、篠原 朋

### 1. 1年のあゆみ

地域の中核病院として、近隣の先生方からの紹介患者さんを多く頂いております。特に入院を必要とする重症例は積極的に取り組んでおります。

昨今の高齢化、糖尿病患者人口の増加による褥瘡や足の壊疽で切断を要する例は、迅速な処置を要することも少なくありません。皮膚悪性腫瘍も大きなテーマで、全身麻酔下の手術もほぼ毎週行っております。また、美容・レーザー治療に関しても以前より取り組んでおります。外来にはQスイッチYAGレーザーと、まだ数の少ないロングパルス色素レーザーを備え、治療にあたっております。

患者さんの紹介・入院に際し、容易にコンサルトが可能で機器の揃った病院を、ご開業や近隣病院の先生方は望んでおられると思います。このようなニーズになるべく応えるべく、地域医療連携室を開設し、広くご紹介をお待ちしております。

### 当科の特色

- ① 高性能機器・特殊機器等（レーザー機器(QスイッチYAGレーザー、ロングパルス色素レーザー、炭酸ガスレーザー)の充実は特色としてあげられます。
- ② 表在性色素性疾患(シミ、アザ等)には、ほぼすべての対応が可能です。
- ③ 3テスラMRIを有し、小さな皮下腫瘍の画像診断を行い、手術を行っています。
- ④ 難治性創傷治療センターを開設し、重傷下虚血の患者さんに循環器科医師のカテーテル治療と連携した治療(手術等)を行っています。

### 2. 資格・専門医等

部長(兼)：林 健

専門医：日本皮膚科学会

### 3. 統計

#### 【患者数推移】

(人/日)

	R3年度	R4年度	R5年度
1日平均外来患者数	50.0	52.0	49.8
1日平均入院患者数	8.3	8.7	8.1

【症例件数】

(件)

1	下腿蜂巣炎	15
2	下肢閉塞性動脈硬化症・壊疽あり	7
3	仙骨部褥瘡	6
4	母趾骨髄炎	6
5	顔面帯状疱疹	4
6	ガス壊疽	3
7	下腿皮膚潰瘍	3
8	顔面太田母斑	3
9	側頭部有棘細胞癌	3
10	下口唇有棘細胞癌	2
11	その他	112

## 17. 泌尿器科

---

### 【医師（令和5年度在籍）】

部 長：新井 兼司  
医 師：清水 知

#### 1. 1年のあゆみ

当院泌尿器科は2022年度まで3名体制でしたが2023年度は1名欠員となり一年間は部長の新井、2014年東邦大卒の清水医師の2名で診療に当たりました。この一年間は2名フルパワーで業務を行い、救急受け入れはお断りせざるを得ない状況でしたが通常診療、手術は例年に近い業務をこなすことができました。清水医師は経尿道的手術、腹腔鏡手術、開腹手術全般に十分教育を受けてきており活躍しております。2024年度は東邦大学から更に後期研修医2名が加わり計4名体制で診療に当たれるようになりました。ひとりひとりの患者さんを大切に、丁寧な診療を心がけ、城南地域を中心とした医療に貢献することが使命と考えています。

診療内容としては、尿路、性器の悪性腫瘍に対しては摘出術、化学療法、放射線治療を組み合わせて患者さんの病状に沿った治療を行っています。主に腎癌、尿路上皮癌（腎盂尿管癌、膀胱癌）、前立腺癌、副腎腫瘍等の治療を行い、腹腔鏡手術は腎摘除術、腎尿管全摘出術、副腎摘除術で対応しています。

良性疾患については、前立腺肥大症に対しては薬物治療、経尿道的切除術を中心とした治療を行っています。その他、尿路感染症、神経因性膀胱、尿路結石、包茎、尿道狭窄など多岐に渡った疾患に当たっています。尿路結石治療に関してはHo-YAGレーザー結石破碎装置を常備し、全尿路の内視鏡的結石破碎手術が増加しています。

女性特有の排尿疾患（骨盤臓器脱）に関しましては女性泌尿器専門の蒲田泌尿器科皮ふ科クリニックと連携を持ち、当院での手術が可能です。

慢性腎不全に対してはブラッドアクセス新規造設、再建手術を手掛けています。

#### 2. 資格・専門医等

部 長：新井 兼司（1987年東邦大学卒）  
医学博士

専門医：日本泌尿器科学会専門医

指導医：日本泌尿器科学会医指導医

副 部 長：清水 知（2014年東邦大学卒）

専門医：日本泌尿器科学会専門医

### 3. 統計

#### 【患者数推移】

(人/日)

	R 3年度	R 4年度	R 5年度
1日平均外来患者数	46.7	45.8	41.3
1日平均入院患者数	8.0	9.8	8.8

#### 【症例件数】

(件)

1	前立腺癌の疑い	49
2	前立腺癌	40
3	膀胱癌	40
4	前立腺肥大症	29
5	尿管結石性閉塞を伴う水腎症	28
6	尿管結石症	23
7	急性腎盂腎炎	12
8	水腎症	9
9	尿路感染症	9
10	急性細菌性前立腺炎	8
11	その他	102

#### 【手術件数】

疾患	手術法	2023年度
副腎腫瘍	⇒ 副腎摘除術	2 例
腎癌	⇒ 腎癌根治的腎摘除術	3 例
腎癌	⇒ 腎癌部分切除術	3 例
腎盂・尿管癌	⇒ 腎盂尿管癌摘除術	2 例
水腎症	⇒ 腎盂形成術	1 例
水腎症、結石性腎盂腎炎	⇒ 経皮的腎瘻造設術	2 例
尿管結石等の水腎症・腎盂腎炎	⇒ 尿管カテーテル留置術	52 例
腎結石	⇒ 経皮的腎結石破砕術	0 例
腎尿管結石	⇒ 経尿道的腎尿管結石破砕術	30 例
膀胱結石	⇒ 経尿道的膀胱結石破砕術	5 例
表在性膀胱癌	⇒ 経尿道的膀胱腫瘍切除術	38 例
浸潤性膀胱癌	⇒ 膀胱全摘除、回腸導管造設術	1 例
排尿障害	⇒ 膀胱瘻造設術	1 例
尿道カルンクラ（外尿道口腫瘍）	⇒ 尿道カルンクラ（外尿道口腫瘍）切除術	1 例
前立腺肥大症	⇒ 経尿道的前立腺切除術	25 例

前立腺癌	⇒	前立腺癌前立腺全摘除術	3 例
前立腺癌（男性ホルモン除去）	⇒	精巣摘除術	6 例
陰嚢水腫	⇒	陰嚢水腫根治術	1 例
尿道狭窄	⇒	尿道狭窄内尿道切開術	4 例
包茎	⇒	包茎手術	5 例
慢性腎不全	⇒	ブラッドアクセス造設術	17 例
膀胱脱（骨盤臓器脱）	⇒	膀胱脱メッシュ吊り上げ術	1 例
膀胱脱	⇒	膣閉鎖	1 例
女性尿失禁	⇒	尿道吊り上げ術	1 例
精巣腫瘍	⇒	高位精巣摘除術	0 例
前立腺癌の疑い	⇒	前立腺生検	47 例

## 18. 産婦人科

---

### 【医師（令和5年度在籍）】

部 長：太田 邦明

#### 1. 1年のあゆみ

東京労災病院産婦人科では、当院の基本理念である「命の輝きを共有できる病院」を実践するべく、産婦人科医療を提供しています。

特に、2022年3月からは婦人科に特化した診療科の構築を目指しており、女性が女性らしく『より輝く』ための治療を提供する予定です。

##### ① 低侵襲性手術による普及

当院では日本産科婦人科内視鏡学会／日本内視鏡外科学会による内視鏡技術認定医（腹腔鏡・子宮鏡）を有しており、体に優しく、社会復帰をより支援することで、現代女性の社会進出を支援しています。

##### ② ホルモン外来の充実

当院では日本生殖医学会 専門医／日本内分泌学会 専門医による、女性特有のホルモン失調・不妊症に対する適切な医療を提供することにより、女性が社会で輝けるように支援しています。

##### ③ 中高年女性の健康増進を目指したアンチエイジング医療の提供

日本では女性の平均寿命は約87歳、健康寿命は約74歳と12年間という大きな差が生じています。そのため、当院では日本抗加齢医学会 専門医／日本女性医学会 専門医により女性が人生の最後まで自立した生活を送れるように中高年女性に対して、“病気になる前に予防する”、“病気を早く見つけ、早く治療する”ことで理想的な長寿高齢者になっていただくように支援しています。

本地域の女性の健康福祉の向上に寄与できるような医療供給源の起点となるように努力させていただきます。

#### 2. 資格・専門医等

部 長：太田 邦明

認定医：日本産科婦人科内視鏡学会技術、日本内視鏡外科学会技術、日本がん治療学会  
がん治療

専門医：日本産婦人科学会、日本内分泌学会、日本生殖医学会、日本女性医学学会、日本抗加齢医学会

指導医：日本産婦人科学会、日本内分泌学会、日本女性医学学会

### 3. 統計

#### 【患者数推移】

(人/日)

	R3年度	R4年度	R5年度
1日平均外来患者数	50.0	52.0	49.8
1日平均入院患者数	24.1	8.9	5.6

#### 【症例件数】

(件)

1	子宮筋腫	22
2	卵巣腫瘍	8
3	卵巣のう腫	3
4	子宮腫瘍	2
5	子宮体癌の疑い	2
6	子宮仮性動脈瘤	1
7	子宮体癌	1
8	子宮内異物	1
9	子宮内膜ポリープ	1
10	子宮内膜増殖症	1
11	その他	4

### 4. 令和6年度の体制

現在、非常勤医による外来診療のみ行っており、婦人科健診を積極的に実施しています。

## 19. 眼科

---

### 【医師（令和5年度在籍）】

副部長：徳久 照朗

医師：後藤 真依

### 1. 1年のあゆみ

常勤医師2名（非常勤1名）・視能訓練士3名で診療を行っており、硝子体手術・白内障手術を治療の中心に据えております。

#### ○硝子体手術

硝子体手術は27ゲージもしくは25ゲージシステムによる低侵襲化に取り組み、エビデンスに基づいた無縫合硝子体手術を実践し、最大限の視機能回復及び早期の社会復帰を目指しております。

#### ○白内障手術

若年のアトピー性白内障から高齢者の成熟白内障まで、通常の白内障手術と同様のスタンスで手術を行っております。

#### ○糖尿病網膜症・眼底出血への集学的治療

最新の検査機器であるOCT-Angiographyや、自発蛍光、蛍光造影検査等を用いて精査します。通常のレーザー治療以外にグリッドレーザーや閾値下レーザー、またVEGF阻害剤注射、トリウムシノロン注射、硝子体手術を組み合わせる最新の低侵襲治療を行い、最大限の視機能回復を目指します。最先端の医療を維持するため、全国学会や専門の集談会に積極的に参加・発表を行っております。

#### ○急患

裂孔原性網膜剥離等の急患も、原則全例受け入れの方針としております。  
部長外来日でなくても、御連絡を戴けますと対応致します。

### 2. 資格・専門医等

副部長：徳久 照朗

専門医：日本眼科学会専門医

その他：神経眼科相談医

医師：後藤 真依

専門医：日本眼科学会専門医

### 3. 業績

#### 【患者数推移】

(人/日)

	R3年度	R4年度	R5年度
1日平均外来患者数	36.2	37.3	34.4
1日平均入院患者数	2.7	2.8	2.2

#### 【症例件数】

(件)

1	白内障	70
2	網膜前膜	17
3	黄斑円孔	4
4	開放隅角緑内障	2
5	原発開放隅角緑内障	2
6	硝子体出血	2
7	眼底出血	1
8	水晶体亜脱臼	1
9	糖尿病黄斑浮腫	1
10	糖尿病網膜症	1
11	その他	4

### 4. 令和6年度の体制

令和6年度より新体制となっています。

#### 【医師（令和6年度在籍）】

医師（非常勤）：秋山 朋代、和田 奈緒子、杉本 智美

## 20. 耳鼻咽喉科

---

### 【医師（令和5年度在籍）】

部 長：高柳 博久  
医 師：赤羽 邦彬、金海 隆子

#### 1. 1年のあゆみ

令和5年度は令和2年度から続いていたコロナ禍の悪影響（入院制限、手術制限など）がほぼ無かった1年でした。

常勤医は平成29年度より勤務している高柳博久と1年交代で派遣されている聖マリアンナ医科大学からの赤羽邦彬と東邦学大森医療センターからの金海貴子の3人体制で診療を行いました。

診療は耳、鼻、咽頭、喉頭の疾患、頭頸部腫瘍、めまい、顔面神経麻痺、睡眠時無呼吸症候群、嚥下障害と幅広く対応しております。その中でも特に嚥下障害に力を入れています。耳鼻咽喉科は摂食嚥下チームのメンバーとして、誤嚥窒息事故の予防、嚥下障害患者の適切な食形態の提示、嚥下リハビリテーションの指示、食べ方の指導を行っています。検査の主体となる内視鏡下嚥下機能検査（VE）、嚥下造影検査（VF）を中心となって行っています。（VE：295件/年、VF：17件/年）

手術に関しましては手術日が週2日（月、金曜日）耳、鼻、咽喉頭、頭頸部領域を万遍なく年間200件程度行っています。

その中で最も多い手術は内視鏡下鼻・副鼻腔手術です。東邦大学大森医療センターの和田弘太耳鼻咽喉科教授は鼻手術のスペシャリストであることから難治例ではアドバイスを頂いています。耳手術に関しては。東邦大学大森医療センターより大平真也先生、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科小森学教授の指導のもと行っています。頭頸部悪性腫瘍の手術が必要となる症例はがん専門病院、大学病院に紹介させて頂いております。今後は嚥下機能改善術、誤嚥防止術などの嚥下の手術も積極的に行っていきたいと考えています。

#### 2. 資格・専門医等

部 長：高柳 博久

専門医：日本耳鼻咽喉科学会耳鼻咽喉科専門医

指導医：日本耳鼻咽喉科学会耳鼻咽喉科指導医、耳鼻咽喉科専門研修指導医

その他：日本耳鼻咽喉科学会認定補聴器相談医、日本嚥下医学会認定嚥下相談医、厚生労働省補聴器適合判定医師研修会修了

### 3. 業績

#### 〈論文〉

「頸部回旋を伴った心因性顔面痙攣の1症例」

金海 隆子 雑誌詳細：耳鼻咽喉科・頭頸部外科誌第96巻第3号  
頁295～299 2024.3.20

#### 〈学会・研究会〉

「耳下腺内リンパ節に転移した眼瞼メルケル細胞癌の1例」

金海 隆子 第33回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会  
愛媛県松山市 2024.2.1

### 4. 統計

#### 【患者数推移】

(人/日)

	R3年度	R4年度	R5年度
1日平均外来患者数	29.8	31.3	35.4
1日平均入院患者数	4.8	5.7	6.8

#### 【症例件数】

(件)

1	副鼻腔炎	35
2	両慢性扁桃炎	34
3	COVID-19	19
4	突発性難聴	14
5	顔面神経麻痺	13
6	末梢性めまい症	13
7	急性扁桃炎	11
8	鼻中隔彎曲症	11
9	心因性めまい	10
10	良性発作性頭位めまい症	10
11	その他	168

【手術件数一覧】

部位	術式名	件数	
外耳	外耳道腫瘍摘出	1	
	先天性耳瘻管摘出術	2	
	耳介腫瘍摘出術	2	
中耳	乳突削開術	1	
	鼓室形成手	11	
	鼓室開放	1	
	鼓膜形成手術	1	
内耳	内耳窓閉鎖術	4	
鼻	鼻甲介切除術	38	※1人1件
	内視鏡下鼻・副鼻腔手術	67	
	鼻副鼻腔腫瘍摘出術	2	
	鼻中隔矯正術	36	
	鼻腔粘膜焼灼術	42	
	鼻茸摘出術	5	
	経鼻腔的翼突管神経切除術	2	
咽頭、扁桃	咽頭異物摘出術	3	
	アデノイド切除術	9	
	咽頭腫瘍摘出術	4	
	口蓋扁桃手術（摘出）	41	※1人1件
	咽頭悪性腫瘍手術	1	
喉頭、気管	咽頭微細手術	16	
	気管切開孔閉鎖術	2	
	深頸部膿瘍切開術	7	
	気管切開術	5	
	喉頭形成手術	2	
	喉頭悪性腫瘍手術（切除）	1	
	気管口狭窄拡大術	4	
口腔、舌	顎下腺摘出術	4	
	耳下腺腫瘍摘出術	1	
	舌腫瘍摘出術	1	
	甲状舌管嚢胞摘出術	1	
	舌悪性腫瘍手術（切除）	1	
甲状腺、副甲状腺	甲状腺腫瘍摘出術	7	
	甲状腺悪性腫	1	
	副甲状腺上皮小体腺腫過	1	
その他	顔面神経減圧手	3	
	リンパ節摘出術	3	

【検査件数一覧】

検査名	件数
嚥下内視鏡検査	295
嚥下造影検査	17

## 診療報酬術式

耳道腫瘍摘出 真珠腫術含む
先天性耳瘻管摘出術
耳介腫瘍摘出術
乳突削開術
鼓室形成手術（耳小骨温存術）、鼓室形成手術（耳小骨再建術）
鼓室開放術
鼓膜形成手術
内耳窓閉鎖術
粘膜下鼻甲介骨切除術、内視鏡下鼻腔手術Ⅰ型
内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅰ型、内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅱ型、内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅲ型
鼻副鼻腔腫瘍摘出術
鼻中隔矯正術、内視鏡下鼻中隔手術Ⅰ型
鼻腔粘膜焼灼術、下甲介粘膜焼灼術
鼻茸摘出術、上顎洞性後鼻孔ポリープ切除術、内視鏡下鼻腔手術Ⅱ型
経鼻腔的翼突管神経切除術
咽頭異物摘出術（簡単）、咽頭異物摘出術（複雑）
アデノイド切除術
中咽頭腫瘍摘出術（経口腔）、下咽頭腫瘍摘出術（経口腔）
口蓋扁桃手術（摘出）
咽頭悪性腫瘍手術
喉頭声帯ポリープ切除 直達鏡、喉頭蓋嚢腫摘出術、喉頭腫瘍摘出術（間接喉頭鏡）、喉頭腫瘍摘出術（直達鏡）
気管切開孔閉鎖術
深頸部膿瘍切開術、口腔底膿瘍切開術
気管切開術
喉頭形成手術
喉頭悪性腫瘍手術（切除）
気管口狭窄拡大術
唾石摘出術（深在性のもの）、顎下腺摘出術
耳下腺腫瘍摘出術（深葉）
舌腫瘍摘出術（その他のもの）
甲状舌管嚢胞摘出術
舌悪性腫瘍手術（切除）
甲状腺部分切除術（片葉）
甲状腺悪性腫瘍
副甲状腺上皮小体腺腫過
顔面神経減圧手 乳様突起経由
リンパ節摘出術

## 21. リハビリテーション科及び中央リハビリテーション部

### 1. 1年のあゆみ

- ① 増員：急性期リハビリに対してより充実したリハビリが提供できるよう PT 1 名 ST 1 名を増員した。
- ② 摂食・嚥下チームの立ち上げと参加：院内 NST 委員会の下部組織として、摂食・嚥下チームを立ち上げ、嚥下障害のある患者への対応を手厚くした。
- ③ 再生医療：市販後調査に参加、ステミラック注投与施設となっており、ステミラック注の投与前後のリハビリを積極的に実施した。
- ④ 実習指導プログラム改定と実施：PT・OT・ST各協会の実習指針に沿って、実習指導プログラムを改定し、臨床実習に反映した。
- ⑤ 院内活動：病棟看護師対象に、情報共有、手技等の勉強会を実施した。
- ⑥ 院外活動の再開：
  - ア) コロナで中止となっていた梅のみ勉強会（大田区近隣の病院と顔の見える連携を目的とした勉強会）を5年ぶりに再開した。
  - イ) 地域連携で、いこいの家で認知症予防講座を実施した。
  - ウ) 区南部地域リハビリテーション支援センター療法士部会に参加した。
- ⑦ 資格取得：新たに、国際シュロスセラピスト、ムーブメントリンクス認定セラピスト、両立支援コーディネーターの資格を取得した。
- ⑧ 発表：第34回日本臨床スポーツ医学会学術集会、第10回日本スポーツ理学療法学会、第42回関東甲信越ブロック理学療法士学会、第19回東京都作業療法学会で発表した。



#### スタッフ構成

リハ医師：	3名
理学療法士：	13名
作業療法士：	6名
言語聴覚士：	3名
看護師：	1名
リハ助手：	2名

## 2. 資格・専門医等

### ① リハビリテーション科医師

#### 鈴木 久美子 リハビリテーション科部長

- 認定医：日本リハビリテーション医学会認定臨床医
- 専門医：日本専門医機構認定リハビリテーション科専門医  
日本リハビリテーション医学会専門医
- 指導医：日本リハビリテーション医学会指導医
- その他：身体障害者福祉法第15条指定医

#### 浪岡 隆洋 リハビリテーション科副部長、脳神経移植科副部

- 認定医：日本リハビリテーション医学会認定臨床医  
日本再生医療学会再生医療認定医
- 専門医：日本脳神経外科学会専門医  
日本脳卒中学会認定脳卒中専門医  
日本リハビリテーション医学会専門医
- その他：日本医師会認定産業医  
身体障害者福祉法第15条指定医

#### 浪岡 愛 リハビリテーション科副部長

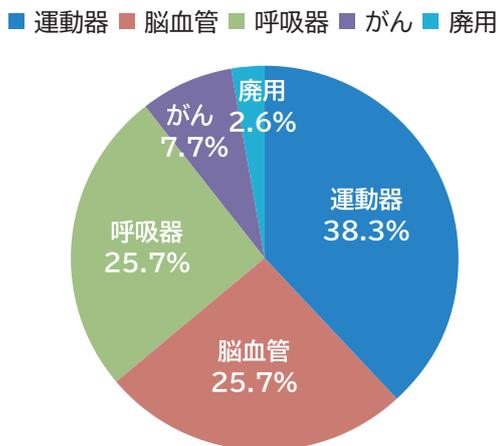
- 認定医：日本リハビリテーション医学会認定臨床医  
日本再生医療学会再生医療認定医
- 専門医：日本リハビリテーション医学会専門医  
日本脳神経外科学会専門医  
日本脳卒中学会認定脳卒中専門医  
日本脳神経血管内治療学会専門医
- その他：日本医師会認定産業医  
身体障害者福祉法第15条指定医

### ② 中央リハビリテーション部スタッフ

3 学会呼吸療法認定士	4	介護支援専門員	3
福祉住環境コーディネーター	1	認定理学療法士（スポーツ）	2
認定理学療法士（運動器）	3	認定理学療法士（呼吸）	1
認定理学療法士（脳卒中）	1	心臓リハビリテーション指導士	2
心不全療養指導士	2	日本糖尿病療養指導士	1
精密知覚機能検査（セメス）	2	両立支援コーディネーター	8
中級障害者スポーツ指導員	1	NASM PES	2
社会教育主事	1	ホスピタリティーコーディネーター	1
MTA インストラクター	1		

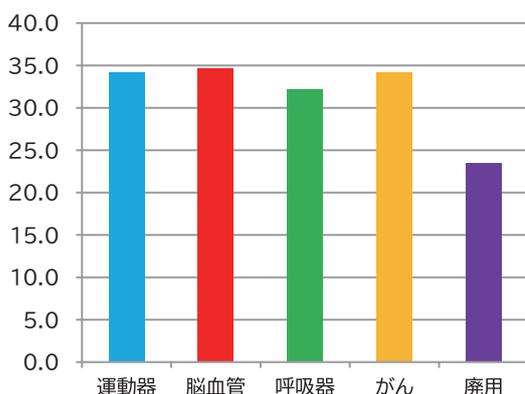
### 3. 部門統計

#### ① リハ実施患者の疾患別内訳



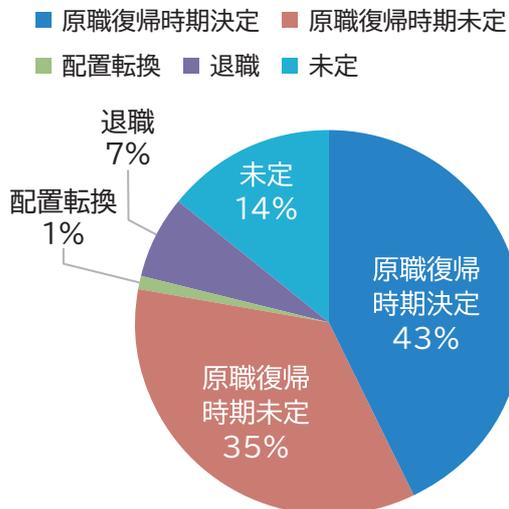
#### ② 疾患別在院日数

(平均31.7日)



**在宅復帰率**  
**65.8%**

#### ③ 有職患者の復職転帰



#### ④ 患者満足度

**患者満足度**  
**97.6%**

## 22. 放射線診断科

---

### 【医師（令和5年度在籍）】

部 長：長瀬 雅則  
医 師：小城原 瑛

#### 1. 1年のあゆみ

放射線診断科は現在長瀬、小城原の常勤2名と非常勤医1名（主に慈恵医大）の3名体制で仕事を行っており、読影加算2を維持しています。

診療はCT、MRI、RIおよび健診の胸部XP・上部消化管造影の全件読影と一般撮影の一部（読影希望）を読影しています。またIVRとしてHCCや消化管出血などの血管内治療、CTガイド下の生検や膿瘍ドレナージおよびCVポートやPICC挿入を行っています。

病診連携としてCT・MRI・RIなどの検査依頼をほぼ全例当日または翌日に受けています。検査にて緊急に対処が必要なことが判明した場合は依頼元に電話をしてできるだけ当院で対処するようにしています。

検査件数はコロナが5類に移行してからも外来及び入院患者の回復が悪いため昨年同時期と著変ない状態ですが、病診連携からの検査件数は増加傾向です。

#### 2. 資格・専門医等

部 長：長瀬 雅則

認定医：PET核医学認定医、マンモグラフィ読影認定医

専門医：放射線診断専門医、核医学専門医、IVR専門医

その他：厚生労働省認定臨床研修指導医、日本医師会認定産業医

医 師：小城原 瑛

専門医：放射線科専門医

#### 3. 業績

「ビギナーのための骨軟部画像診断」画像診断 vol44 no.2 2024

小城原 瑛秀潤社 2024

## 4. 統計

### 【患者数推移】

(人/日)

	R 3年度	R 4年度	R 5年度
1日平均外来患者数	6.2	6.0	6.4
1日平均入院患者数	-	-	-

### 【放射線診断科診療実績（令和5年度）】

(件)

CT 読影	15,753	その他読影	6,337
MRI 読影	6,721	IVR	136
RI 読影	545	病診連携依頼	1,362

## 23. 放射線治療科

### 【医師（令和5年度在籍）】

医 師：西村 恵美

#### 1. 1年のあゆみ

当科の医師は常勤1名、非常勤1名の体制です。2023年10月に常勤の医師が豊福から西村に交代しました。非常勤は伊藤が前年度に引き続き週1日の勤務を継続しています。また、非常勤で週1日、医学物理士の宮浦が勤務しています。さらに診療放射線技師6名（うち女性3名含む）および看護師3名（全員女性）が交代で勤務しており、以上のような体制で診療を行っております。放射線治療装置の品質管理は、医学物理士や診療放射線技師との協働で管理しており、精度・質の高さを確保しています。スタッフ全員が連携して、QOL向上を目指した放射線治療を提供しております。

診療については近年徐々に件数が増えており、2023年は新規患者数が100名を超えました。治療内容については、もっとも多い疾患は肺癌（縦隔腫瘍含む）であり、2023年4月に当院は肺がん領域で東京都がん診療連携協力病院の指定を受けました。また、癌による疼痛などの症状を和らげる緩和照射も積極的に行っております。近年では近隣の病院や診療所から緩和照射を目的に患者様をご紹介いただくことも増えてきており、積極的に受け入れています。放射線治療は通院での治療が可能ですが、通院困難な患者様の場合は一時的に当院に転院していただいて治療を行うこともあります。2023年7月には、医療連携懇話会で放射線治療についての発表を行い、当科の診療内容についてご紹介いたしました。

放射線治療は体に負担の少ない治療であり、患者様からのニーズも高まってきています。放射線治療を通じて地域のがん治療に貢献していきたいと考えます。今後ともどうかよろしくお願ひ申し上げます。

### 【スタッフ紹介】

放射線治療科医師	学会認定資格
西村 恵美	放射線治療専門医 日本医学放射線学会研修指導者
伊藤 芳紀	放射線治療専門医 がん治療認定医 日本食道学会食道科認定医 日本医学放射線学会研修指導者 日本膵臓学会認定指導医

## 【装置紹介】

### 放射線治療装置

#### trueBEAM（バリアン）

高線量率による治療時間の短縮化で、定位放射線治療などの高精度治療を可能とします。また、呼吸同期や画像誘導システム搭載により、治療の精度が高まります。



### 放射線治療計画 CT

#### SOMATOM Definition AS OPEN（シーメンス）

放射線治療専用ワイドボア 64列マルチスライス CT です。通常撮影から呼吸監視デバイス RGSCシステムを利用して自由呼吸下での 4DCT 撮影も可能です。



## 2. 統計

### 【患者数推移】

（人／日）

	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度
1 日平均外来患者数	8.2	8.7	9.2
1 日平均入院患者数	-	-	-

### 【診療実績（件数）】

治療内容	R 2 年	R 3 年	R 4 年	R 5 年
脳腫瘍	0	3	3	1
頭頸部腫瘍	0	0	2	2
乳がん	10	18	19	16
肺がん、縦隔腫瘍	31	37	31	38
食道がん	3	1	6	3
悪性リンパ腫	1	0	2	0
前立腺がん	20	14	7	16
膀胱尿管がん	2	1	2	1
直腸肛門がん	16	6	9	13
肝胆膵がん	3	4	2	5
皮膚・骨・軟部腫瘍	2	2	1	1
脳転移	14	20	19	6
骨転移	14	20	19	28
計	106	119	114	130

## 24. 麻酔科

### 【医師（令和5年度在籍）】

部 長：本多 信雅

副 部 長：伊達 久子

#### 1. 1年のあゆみ

2023年度麻酔科は前年度から常勤医師が1名減少したため、常勤医師2名と週のべ5人の非常勤医師で診療を行なった。

診療内容は、手術麻酔を中心に依頼があればペインクリニックも行なっている。

手術麻酔は全身麻酔、硬膜外麻酔、脊椎くも膜下麻酔、静脈麻酔、各種神経ブロックをおこなひ、各科の手術に対応している。

ペインクリニックは星状神経節ブロック、硬膜外ブロック、肋間神経ブロック、薬物療法で主に帯状疱疹後神経痛の患者の治療を行なっている。

#### 2. 資格・専門医等

部 長：本多 信雅

専門医：機構専門医

指導医：日本麻酔科学会指導医

その他：麻酔科標榜医

副 部 長：伊達 久子

専門医：機構専門医

指導医：日本麻酔科学会指導医

その他：麻酔科標榜医

#### 3. 統計

##### 【患者数推移】

(人/日)

	R3年度	R4年度	R5年度
1日平均外来患者数	0.3	0.2	0.3
1日平均入院患者数	-	-	-

## 25. 脳神経移植科

### 【医師（令和5年度在籍）】

副部長：浪岡 愛

副部長：浪岡 隆洋

#### 1. 1年のあゆみ

東京労災病院 脳神経移植科において、2022年9月よりステミラック注（自家骨髄間葉系幹細胞投与）を用いた急性期脊髄損傷の再生医療を開始し、関東で初めての投与を行いました。ステミラック注は、本人の骨髄液中の間葉系幹細胞を培養で増やし、点滴で体内へ戻すことで脊髄損傷による機能改善を図ります。急性期脊髄損傷患者さんに保険適応のある再生治療で、既存の脊髄損傷治療（リハビリテーション治療等）に併用して行います。脊髄損傷の急性期の全身管理・リハビリテーションから慢性期の社会復帰に向けて総合的な診療を行っています。当科はリハビリ・神経再生医療・脳外科の専門医・認定医を持つ医師の為、患者の機能を改善させるための最大限の全身管理・再生医療・リハビリを追及しています。

#### 2. 資格・専門医等

名 前 浪岡 愛（なみおか あい）

職 名 脳神経移植科副部長、リハビリテーション科副部長（兼務）

学歴等 平成16年 北里大学医学部卒

平成30年 札幌医科大学大学院神経再生医療学卒、医学博士

認定医 日本再生医療学会再生医療認定医、日本医師会認定産業医

専門医 日本脳神経外科学会専門医 日本脳卒中学会認定脳卒中専門医 日本脳神経血管内治療学会専門医 日本リハビリテーション医学会認定専門医

その他 身体障害者福祉法第15条指定医

名 前 浪岡 隆洋（なみおか たかひろ）

職 名 リハビリテーション科副部長、脳神経移植科副部長（兼務）

学歴等 平成16年 北里大学医学部卒

平成30年 札幌医科大学大学院神経再生医療学卒、医学博士

認定医 日本再生医療学会再生医療認定医、日本医師会認定産業医

専門医 日本脳神経外科学会専門医 日本脳卒中学会認定脳卒中専門医  
日本リハビリテーション医学会認定専門医

その他 身体障害者福祉法第15条指定医

### 3. 業績

#### 〈論文〉

- Intravenous infusion of auto-serum-expanded autologous mesenchymal stem cells into chronic severe brain injury patients; Tomohiro Yamaki, Shinichi Oka, Satoshi Iyama, Masanori Sasaki, Rie Onodera, Yuko Kataoka-Sasaki, Takahiro Namioka, Ai Namioka, et.al. (Interdisciplinary Neurosurgery, Volume 36, June 2024, 101927)
- The Impact of Purple-Flesh Potato (*Solanum tuberosum* L.) cv.“Shadow Queen” on Minor Health Complaints in Healthy adults: A Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled Study; Mari Maeda-Yamamoto, Osamu Honmou, Masanori Sasaki, Akane Haseda, Hiroyo Kagami-Katsuyama, Toshihiko Shoji, Ai Namioka, Takahiro Namioka, et.al. (Nutrients 2022, 14 (12) , 2446; <https://doi.org/10.3390/nu14122446> )
- Intravenous infusion of auto serum-expanded autologous mesenchymal stem cells in spinal cord injury patients: 13 case series; Osamu Honmou, Toshihiko Yamashita, Tomonori Morita, Tsutomu Oshigiri, Ryosuke Hirota, Satoshi Iyama, Junji Kato, Yuichi Sasaki, Sumio Ishiai, Yoichi M.Ito, Ai Namioka, Takahiro Namioka, et al. (Clinical Neurology and Neurosurgery 203 (2021) 106565)

#### 〈学会・講演会〉

「ステミラック注市販後調査について」

群馬リハビリテーション病院 2023.6

「脊髄損傷に対する再生医療～当院の取り組み～」

梅の実勉強会 2023.7

「東京労災病院でのステミラック症例報告および当院での工夫について」

第9回脊髄損傷再生治療研究会 Web開催 2023.9

「重傷頸髄損傷に対する自家骨髄間葉系幹細胞移植法について」

東京都放射線技師会地区研修会 2023.9

「ステミラック治療の現状と展望」

城南福祉医療協会 大田病院 2024.4

## 4. 統計

### 【患者数推移】

(人/日)

	R3年度	R4年度	R5年度
1日平均外来患者数	0.8	0.7	0.8
1日平均入院患者数	2.4	2.6	4.7

### 【投与実績】

全国から患者さんのご紹介を頂いており、年齢も10代から70代までと幅広い患者さんに投与しております。2022年12月に当院第一例目のステミラック注投与を行い、令和6年6月現在に至るまで29例の投与を終了しています。

当院における令和6年6月現在のステミラック注投与症例数

投与例	29	中止理由		
中止例	3		感染症	1
現在培養中	3		癌	2
合計	35			

### 当院への紹介施設

東京都	牧田総合病院
	広尾日本赤十字医療センター
	日本医科大学付属病院
	東京医科歯科大学
	東京医科大学
	品川志匠会病院
	武蔵野赤十字病院
	聖路加国際病院
	東京医科大学八王子医療センター
	昭和大学医学部附属病院
	国立国際医療研究センター病院
東医大八王子医療センター	
神奈川県	横浜市立大学附属市民総合医療センター
	東海大学医学部
	湘南鎌倉総合病院
	川崎市立川崎病院
	昭和大学横浜市北部病院
	昭和大学藤が丘病院

千葉県	千葉療護センター
	亀田総合病院
	東千葉メディカルセンター
	国立病院機構災害医療センター
	千葉県総合救急災害医療センター
	千葉療護センター
	千葉北総病院
岩手県	岩手県立医科大附属病院
群馬県	前橋赤十字病院
静岡県	峡南医療センター富士川病院
三重県	三重大学医学部附属病院
高知県	高知大学医学部附属病院

#### 当院からの転院先：

東京都	初台リハビリテーション病院
	大田病院
	牧田リハビリテーション病院
	蒲田リハビリテーション病院
	牧田総合病院
神奈川県	神奈川県リハビリテーション病院
	東神奈川リハビリテーション病院
	横浜市立脳卒中・神経脊椎センター
埼玉県	国立障害者リハビリテーションセンター※ <sup>1</sup>
千葉県	千葉リハビリテーションセンター
群馬県	群馬リハビリテーション病院
山梨県	甲州リハビリテーション病院
岡山県	国立吉備高原職業リハビリテーションセンター※ <sup>1</sup>

※1 回復期リハビリ終了後

## 26. 病理診断科

### 【医師（令和5年度在籍）】

部 長：塩野 さおり

#### 1. 1年のあゆみ

病理の業務は全て下請けのため令和5年で特記すべきことはなく粛々と日々の業務にあたっています。病理が患者さんに直接働きかけることは出来ませんが、標本を見て気づくことやお伝えしたいことがあれば積極的に主治医の先生とコンタクトを取るように心がけています。しかしフィードバックをお願いしても無いこともしばしばあり若干寂しく思います。連携する科が密に連絡を取ることは、医療の質の向上やお互いの経験値の向上にもなるので今後も変わらず続けたいと思います。

近年は分子生物学的アプローチが盛んになっており、いずれ病理検体を用いたオミックス解析が必要となる時代が到来すると思います。最先端のことを日常的に行う大学病院との連携を切らさず、今後も順天堂大学の人体病理病態学講座との連携を続けたいと思います。

病理の主任技師の定年が目前に迫る中で次期主任候補の技師が病理医に無断で引き抜かれたのは痛手でしたが、落ち込むことなくこれにめげずに人材育成に励みたいと思います。

#### 2. 資格・専門医等

部 長：塩野 さおり

専門医：日本病理学会病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医

指導医：日本病理学会病理専門医研修指導医

#### 3. 統計

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
細胞診断件数	74	100	124	113	103	92	86	109	111	57	122	97
組織診断件数	266	245	265	260	248	221	251	266	251	224	215	243
免疫染色件数	15	13	9	17	15	9	10	10	8	13	17	17
術中診断件数	4	2	4	2	5	1	5	4	4	2	3	2
解剖件数	0	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0
学会発表・論文 投稿写真撮影	2	1	2	0	0	0	1	2	0	0	0	0

## 27. 救急科

### 【医師（令和5年度在籍）】

部 長：山本 武史

#### 1. 1年のあゆみ

救急部長不在のため、救急搬送に関しては令和5年度、ようやく通常の搬送台数近くに戻ってきました。現在当院は整形外科撤退に伴い、救急医療の機能を十分に発揮できているわけではないですが、救急搬送の6～7割は内科的な疾患群であり、救急診療の需要は十分あります。狭い救急室ですので100%の応需は難しいですが、応電した搬送依頼に関しては90%以上応需しておりますので、さらに効率化を進めて多くの救急搬送患者さんの受け入れに寄与できるよう精進してまいります。

#### 2. 資格・専門医等

部 長：山本 武史

専門医：日本救急医学会専門医

指導医：日本救急医学会指導医

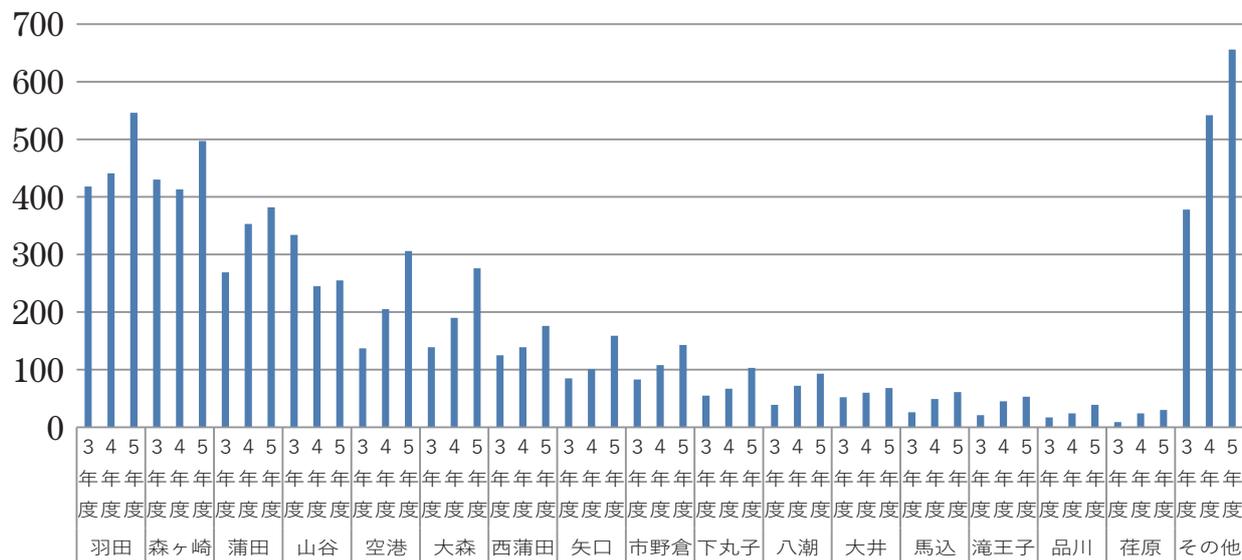
その他：厚生労働省認定臨床研修指導医、東京DMAT、日本救急医学会ICD

#### 3. 統計

##### 【救急車搬送患者数および入院患者数】

	R3年度	R4年度	R5年度
救急搬入患者	2,617	3,078	3,843
救急搬入のうち入院	1,255	1,475	1,837

##### 【救急隊別搬送件数】



## 28. 呼吸器センター

### 1. 1年のあゆみ

#### 【医師】令和5年度在籍

センター長：穴見洋一

副 長：河野正和

センター員：呼吸器内科医 呼吸器外科医 放射線治療医

#### 【呼吸器センターの歩み】

平成26年7月、当時の寺本院長の指示により、当時の呼吸器内科部長・戸島先生をセンター長として、呼吸器内科、呼吸器外科、放射線治療科の3科で

構成される、診療科横断的な疾患センターとして院内に開設されました。

現在、呼吸器内科医7名、呼吸器外科医2名、放射線治療医1名の計10名で組織されています。この人数は大学病院を除けば、近隣の一般病院ではかなり充実した人員を擁しています。

令和5年度には呼吸器センターとして673例の症例をご紹介いただきました。直近5年間に当呼吸器センターにご紹介いただきました患者さんの推移を以下に記します。

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
呼吸器内科	547	380	478	455	594
呼吸器外科	40	50	64	62	75
放射線治療科	0	2	0	3	4
合 計	587	432	542	520	673

令和2～4年度はCOVID-19パンデミックの影響で紹介数が減りましたが、令和5年度は呼吸器内科宛て594例、呼吸器外科宛て75例、放射線治療科宛て4例と、過去最高の症例数をご紹介いただきました。

これもひとえに近隣の医院、クリニックそして病院の先生方が患者さんをご紹介していただいた賜物です。この場を借りて改めて感謝申し上げます。

当呼吸器センターの強みは内科・外科・放射線治療科の垣根を越えて、患者さんにとって最短・最善の治療方針を作成し、速やかに実行に移せることです。そのために毎週月曜に皆で集まりカンファレンスを行っております。

肺・胸部、縦郭に何かしらの異常を疑われたら、遠慮なく当センターにご連絡下さい。また、どの診療科に紹介したらよいのか迷うような場合、例えば気胸、膿胸、血痰・喀血なども当呼吸器センターで対応いたしますので、お気軽にご連絡ください。

現在、当院では院長指導のもと“断らない医療”を実践・拡充しているところです。もし

お困りの症例などございましたら、お手数とは存じますが、当呼吸器センター長までご連絡下さい。可能な限り対応いたします。

## 2. 資格・専門医等

各診療科の項をご参照ください。

## 3. 業績

各診療科の項をご参照ください。

## 4. 呼吸器センターの診療実績

今後、当センターで診療にあたりました患者さんの疾患及び治療内容、転機については、次回年報でご報告する予定です。

## 29. アスベスト疾患センター

---

### 1. 1年のあゆみ

当部では呼吸器内科の呼吸器専門医が石綿（アスベスト）健診を行っており、厚生労働省による石綿健診の受診者数は東京都と埼玉県を中心に約200名/年（延べ400回/年）、また大田区の石綿健診は約20名/年、その他職域による健診も行っています。

石綿プラーク（石綿班）の他、石綿肺、びまん性胸膜肥厚・石綿胸水など呼吸不全を呈することもある疾患の経過観察、肺癌・悪性中皮腫など悪性疾患の発見が主な目的です。一方で受診者の高齢化も相まってその他の疾病が偶然発見されることもあり、当院以外の医療施設に情報提供・診察のご依頼をさせて頂く機会も増えています。

今後も受診される方々の健康に寄与すべく診療を継続してまいります。

呼吸器内科 河野正和

### 2. 資格・専門医等

各診療科の項をご参照ください。

### 3. 業績

各診療科の項をご参照ください。

## 30. 薬剤部

---

### 1. 1年のあゆみ

東京労災病院薬剤部では、「安全で効果的な薬物療法の提供」「医薬品の安全管理・安全使用の実践」「医薬品の適正使用の推進」の三つを基本方針とし、様々な業務を実践しています。

令和5年度も当院を受診いただく患者様のため、地域医療のため、薬剤部も一丸となって業務に取り組んでまいりました。この一年で行った研究発表や論文執筆の詳細については③2023年度薬剤部業績をご覧ください。また、業務統計については④2023年度薬剤部業務統計をご覧ください。従来以上の取り組みを達成してきたことが皆様にご理解いただけるかと思えます。

医薬品は正しく使うことで初めて十分な効果が得られます。最近の医薬品は効果が高い反面、十分理解して使用しないと逆効果になってしまう医薬品も多くなっており、注意が必要です。医薬品同士で効果を強めたり、弱めたり、あるいは食事の影響、健康食品やサプリメントとの併用が医薬品の効果に影響を与えることもあります。

当薬剤部では「当院で処方されたお薬について、わからないことや心配なことがありましたら、ご遠慮なく薬剤部窓口までお越しくください。薬剤部スタッフが親切丁寧にご相談承ります。」とホームページ等で発信しています。当院に受診いただいている患者様の薬物療法を積極的に支援し、おくすりに関する不安軽減及びさらなる安全確保に努めてまいります。

また、薬剤師の職責の一つである「適正な薬物療法の支援」に基づき、調剤室にとどまらず、病棟や外来診察室、手術室、救急室に至るまで「くすりのあるところに薬剤師」を柱に、チーム医療の一員として活躍の場を広げています。今後、地域包括ケアシステムの推進と共に、病院を超えて役割はますます広がるでしょう。東京労災病院薬剤部は、医師・看護師や他の医療従事者と共に、働く方々や地域の皆様に最善の医療を提供していく所存です。

## 2. 資格・専門薬剤師等（2024年4月1日現在）

### 資格

日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師  
日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師  
独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 障害者職業生活相談員  
医療安全管理者  
日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療専門薬剤師  
JOHAS 両立支援コーディネーター  
日本臨床栄養代謝学会 認定栄養サポートチーム専門療養士  
日本病院薬剤師会 病院薬学認定薬剤師  
日本病院薬剤師会 感染制御専門薬剤師  
日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師  
日本循環器学会 心不全療養指導士  
日本高血圧学会 循環器病予防療養指導士  
日本病院薬剤師会 認定指導薬剤師  
日本薬剤師研修センター 認定薬剤師  
日本糖尿病療養指導士認定機構 糖尿病療養指導士  
日本薬剤師研修センター 漢方・生薬認定薬剤師  
日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師  
日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師  
厚生労働省 DMAT  
日本臨床救急医学会 救急認定薬剤師  
日本病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師

## 3. 業績

### 〈学会発表〉

「関東中部圏内の労災病院における災害時の薬剤部運営に関する現状調査」

渡邊 卓巳、坂本 拓也、中尾 耕治、荒井 宏人

関東・中部ブロック労災病院薬剤部会、魚津市、2023.7.1

「小児科領域の抗菌薬適正使用に関する保護者向け啓発動画の作成とシナリオ内容の検討」

川村 ひとみ、櫻井 秀彦、坂本 拓也、荒井 宏人、直井 和之、津久井 理絵、

巖本 三壽、相澤 まどか、岸本 桂子 第33回日本医療薬学会年会

仙台市 2023.11.3

「COVID-19 流行前後でのマクロライド系抗菌薬の使用状況調査および薬剤耐性対策アクションプランにおける使用量削減のための課題」

高木 栄希、坂本 拓也、川村 ひとみ、中尾 耕治、荒井 宏人  
第 33 回日本医療薬学会年会 仙台市 2023.11.4

「門前薬局との災害時の連携体制の構築に向けた取り組み」

渡邊 卓巳、坂本 拓也、中尾 耕治、白石 貴寿、荒井 宏人  
第 33 回日本医療薬学会年会 仙台市 2023.11.5

「小児科領域の抗菌薬適正使用を目的とした保護者向け啓発動画の作成と効果の検討」

川村 ひとみ 第 30 回ヘルスリサーチフォーラム 千代田区 2023.12.10

### 〈講演〉

「院内における薬剤師の役割」

荒井 宏人 新入職員研修会 ハイブリッド開催 2023.4

「処方箋・注射箋の見方について」

荒井 宏人 新入看護部研修会 院内 Web 開催 2023.4

「経口抗がん薬を含むがん薬物療法における薬薬連携～がん薬物療法を安全に行うために～」

奥田 和貴 蒲田薬剤師会学術研修会 Web 開催 2023.4.19

「抗菌薬適正使用のためのアンチバイオグラムの活用正使用セミナー」

坂本 拓也 院内 Web 開催 2023.5

「静脈注射薬とハイリスク薬取り扱いに関する基礎知識」

荒井 宏人 院内講習会 院内 Web 開催 2023.7

「院内における薬剤部の役割」

荒井 宏人 看護師実務実習講習会 院内、2023.9・2024.1

「病棟ストック薬の用法用量、使用上の注意、特徴について」

小松 浩大 病棟勉強会 院内 2023.9.28

「感染対策の見直し～次亜塩素酸 Na の浸漬消毒～」

坂本 拓也 感染対策向上加算連携カンファレンス 大田区 2023.10.18

「抗がん薬の曝露対策について」

奥田 和貴 医薬品安全管理セミナー 院内 Web開催 2023.11

「脳梗塞における抗血小板薬、抗凝固薬」

小松 浩大 病棟勉強会 院内 2023.12.7

「薬の飲み合わせとは」

鈴木 美和 出張講座 大森南図書館 2024.1.11

「脳出血における降圧」

小松 浩大 病棟勉強会 院内、2024.1.25

「当院における薬剤業務と製薬企業に望むこと」

荒井 宏人 企業セミナー ハイブリッド開催 2024.2

「消毒薬適正使用～次亜塩素酸 Na（ミルクポン）の浸漬消毒の見直し～」

坂本 拓也 院内感染対策研修 院内 Web開催 2024.2

「抗菌薬はなぜ適正に使用する必要があるのか -ASTの活動について -」

川村 ひとみ 抗菌薬適正使用セミナー 院内 Web開催 2024.2

「血圧を下げる薬の話」

井上 優子 出張講座 大森南図書館 2024.2.8

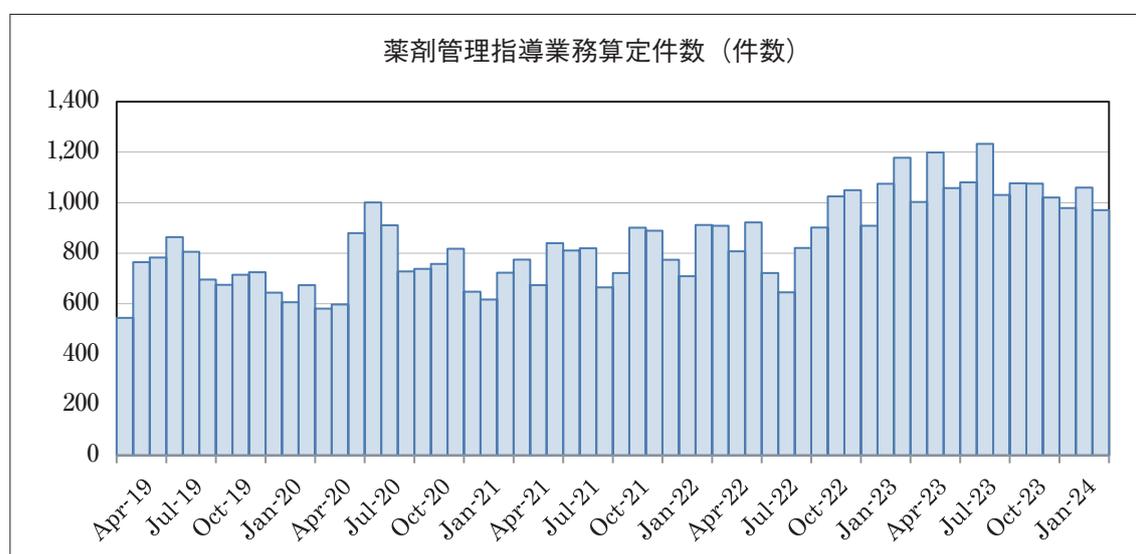
「能登半島地震 災害派遣報告」

渡邊 卓巳 部内報告会 院内 2024.3.1

## 4. 統計

- 院内外来処方箋枚数 555 枚 / 月平均
- 院内入院処方箋枚数 4,873 枚 / 月平均
- 注射箋枚数（外来・入院） 8,688 枚 / 月平均
- 注射箋件数（外来・入院） 24,047 件 / 月平均
- 麻薬処方箋枚数 72 枚 / 月平均
- 麻薬注射箋枚数 319 枚 / 月平均
- 非無菌製剤件数 6 件 / 月平均
- 無菌製剤件数 9 件 / 月平均
- 無菌製剤処理件数 143 件 / 月平均
- TDM解析件数 12 件 / 月平均
- DI業務情報提供件数 15 件 / 月平均
- 持参薬鑑別件数 510 件 / 月平均
- がん患者指導管理料ハ算定件数 13 件 / 月平均
- 薬剤管理指導件数 1,049 件 / 月平均  
(経時的推移は下記のグラフ参照)
- 麻薬管理指導件数 7 件 / 月平均

- 薬剤管理指導業務算定件数の推移 (2019.4 ~ 2024.3)



## 31. 中央放射線部

---

### 1. 1年のあゆみ

令和元年から令和5年度にかけて、リニアック（放射線治療装置）・一般撮影装置・ポータブル撮影装置・MRI・乳房撮影装置・血管撮影装置、そしてCTと多岐にわたる機器を更新いたしました。これらの更新は、最新の技術を取り入れることで、より高精度な画像の提供が可能となり、診断精度の向上に貢献しております。

リニアックは、呼吸同期・画像誘導システムを搭載し「高い精度」で、また高線量率による治療により「短い時間」での治療が可能です。昭和大学の医師と医学物理士と協働で放射線治療装置の品質管理等行うことにより、定位放射線治療などの高精度治療を行っており、大学病院と同等の治療を提供しております。

MRIは、より短時間での検査が可能になり、患者様の負担を軽減すると同時に、より多くの患者様を撮影することができます。CTは、これまでより低線量での撮影が可能になり、患者様への放射線被ばくのリスクを減らすことができます。乳房撮影装置や血管撮影装置の更新では、従来よりも詳細な画像を得ることができ、早期発見や治療の精度を高めることが可能になりました。

これらの装置は、医療現場での効率化だけでなく、患者様が安心して治療を受けられる環境を整えることに寄与しております。

また、令和3年より夜間休日を待機制から二交代制に移行し、24時間体制で救急対応に取り組んでおります。

中央放射線部は、地域の皆様に安全で安心な医療を提供できますよう、日々努めてまいります。

### (スタッフ)

診療放射線技師 24名（男性19名 女性5名）

### (機器等の整備)

令和1年10月 リニアック（バリアン社製 True Beam）

令和3年10月 一般撮影装置（島津製作所製 RADspeed Pro）

ポータブル撮影装置（島津製作所製 CALNEO Go PLUS）

令和4年1月 MRI（シーメンス社製 MAGNETOM Altea）

令和5年3月 乳房撮影装置（シーメンス社製 MAMMOMAT Revelation）

令和5年9月 血管撮影装置（フィリップス社製 Azurion7 M20）

令和6年3月 CT（キヤノン社製 Aquilion Prime SP）

## 2. 資格等

X線 CT 認定技師	2 名
肺がん CT 検診認定技師	1 名
磁気共鳴専門技術者	2 名
血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師	1 名
核医学専門技師	1 名
検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師	5 名
放射線管理士	1 名
放射線機器管理士	1 名
医療情報技師	1 名
第 1 種放射線取扱主任者	4 名
医学物理士	1 名
臨床実習指導者	1 名

## 3. 統計

【検査実績：件数】

(件)

	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度
一般撮影	31,615	31,818	30,181
マンモグラフィ	606	570	598
骨密度検査	733	731	837
TV 透視検査	761	871	719
血管撮影（IVR 含む）	1,042	1,085	887
CT 検査	15,402	15,252	15,898
MRI 検査	6,784	7,026	6,837
RI 検査	600	622	548
放射線治療（照射件数）	119	114	130

## 32. 中央検査部

---

### 1. 1年のあゆみ

令和5年度における中央検査部は臨床検査技師25名（常勤24名、定年後再雇用1名）が、中央検査部長のもとに検体検査部署、微生物検査部署、病理検査部署、生理検査部署の4部署体制で運営を行いました。令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類になり、一時は月に700件以上あったコロナ検査件数も5月には330件、6月には290件と減少し、11月には210件となりました。しかしそこから徐々に増加し始めて年末から3月までは400～300件ほどと感染状況は続きました。中央検査部はこれらの検査依頼に対して24時間体制で迅速で正確な結果報告に努めました。このような中であっても、若いスタッフへの業務習得の研修を積極的に行い、質の高い検査精度と効率的な検査実施を目指しました。また部署間のローテーションを行い、部署間のサポート体制を構築し有機的に人が移動することで、残業削減、年休取得率アップに努めました。

業務改善の取り組みとしては、外部委託検査項目と院内検査項目の見直しを行い、収益効率の悪い院内項目のCA125とHCGの2項目を外注検査としました。一方で依頼件数の多い項目である、ACTH、シスタチンC、レニン活性（レニン濃度へ変更）、アルドステロン濃度項目を外注検査から院内検査へと変更して、迅速な結果報告と外注支払い金額の減額を行いました。また臨床から要望があった血小板凝集能検査、ヘリコバクターピロリPCR検査、結核菌遺伝子検査（TB-PCR）を新規に導入しました。輸血検査ではコンピュータクロスマッチの導入、血液製剤の院内在庫運用をはじめ、迅速な血液製剤の出庫ができるようにしました。さらに臨床へのサービスとして「臨床検査案内」改訂版の発行と、検体採取容器の一覧表のリニューアルを電子カルテにアップしました。年度初めから行っていた品質保証施設認証の申請手続きが完了し、認証承認を待つ状況となりました。一年をかけて業務のマニュアル化や管理文書の整備などを日常業務の合間に行いました。

#### 【機器更新】

- 尿一般検査分析器（UF-1500、US-3500）
- 凝固検査分析機器（CN-6000）

#### 【精度管理調査】

- 日臨技：評価 A+B = 99.2%
- 日臨技（POCT）：評価 A+B = 100%
- 都臨技：評価 A+B = 100%
- 日本医師会：評価 A+B = 95.9%

## 2. 資格等

認定資格名		取得者	認定資格名	取得者
二級臨床検査士	血液	5	認定救急検査技師	2
	化学	1	認定血液検査技師	1
	循環器	1	認定輸血検査技師	2
	微生物	2	認定病理検査技師	1
	病理	3	認定病理検査技師	1
超音波検査士	循環器	3	緊急臨床検査士	2
	体表	2	聴力検査士	3
	消化器	1	糖尿病療法指導士	1
	血管	1	がんゲノム医療コーディネーター	2
細胞検査士		4	東京肝炎医療コーディネーター	1
国際細胞検査士		3	医療安全管理者	1
第一種作業環境測定士		1	精度管理責任者	1
劇毒物取扱責任者		1	第一種衛生管理者	1
乙4種危険物取扱責任者		1	衛生工学衛生管理者	1
有機溶剤作業主任者		2	臨地実習指導者	1
特定化学物質作業主任者		2	その他	6

## 3. 業績

「日常検査で同定困難であった珍しい菌種の1例」

大野倭汰 第40回関東地区労災病院臨床検査技師会学会

千葉県市川市 2023.11.19

## 4. 統計〈検査件数〉

### ① 令和5年度検査件数（令和5年4月～令和6年3月）

検体検査生	化学・免疫学的検査	84,000 件
	血液学的検査	70,000 件
	一般検査	46,000 件
	輸血検査	31,00 件
微生物学検査	一般培養検査	5,300 件
	血液培養検査	2,800 件
	抗酸菌検査	879 件
	迅速抗原検査	1,200 件
病理学的検査	組織診	3,200 件
	細胞診	1,000 件
	迅速標本	54 件
	剖検	5 件
生理学的検査	心電図検査	7,000 件
	脈波検査	1,100 件
	肺機能検査	1,200 件
	脳波・筋電図検査	200 件
	超音波検査	6,486 件

### ② インシデントレポート提出状況（件数）

レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3a	レベル 3b	レベル 4	レベル 5	計
27	13	0	0	0	0	0	40

## 33. 中央臨床工学部

### はじめに

第21号2011年を最後に当部門への年報提出依頼がなく12年振りに原稿を提出する事になりました。2011年当時は2名しかスタッフがおらず、臨床工学室での投稿となっていたことを思い出します。その後、経年的に業務拡大を実施し、中央診療支援部門へ移行することを認めてもらうよう当時の病院幹部にお願いしました。2018年7月本部より中央臨床工学部への名称変更が認められ、中央診療支援部門となりました。2020年11月より部長を医師から臨床工学技士へと移行し、スタッフ数もこの12年間で6名まで増員され、医療機器のスペシャリストとして、病院運営に貢献できる組織の一部になったのではないかと思います。

### 【当部門のPR】

当院の中央臨床工学部は、循環器関連業務・血液浄化関連業務・集中治療室業務・医療機器管理業務を中心に業務しており、「いのちのエンジニア」として医療従事者、患者に安心して安全な医療を提供できるよう日々努力しております。



### 1. 1年のあゆみ

4月より検査部の渡辺世志樹さんが臨床工学技士へ職種変更し業務する事になりました。渡辺さんは臨床検査技師だけではなく、臨床工学技士の免許も取得しており、血液透析について以前より興味があり、勉強したいとの事で当部門にて業務する事になりました。定年後に関わらず、勉強熱心な渡辺さんの心意気に頭が下がる思いです。また、9月にスタッフ1名が産休に入り、スタッフ数はマイナスになりましたが、渡辺さんの頑張りでも透析室業務は何とか対応できたのではないかと思います。

年度末には東京女子医大からの腎代謝内科医師派遣がなくなり、腎代謝内科医師がゼロになるという事態に陥り、透析室の維持が困難になりました。院長、副院長と相談し、外来維持透析患者を半分に減らし何とか対応できるような状況をつくり、来年度へ繋げるようにした次第です。当院より移動を余儀なくされた透析患者さんには申し訳なく謝罪の毎日でした。

循環器部門は、現在2名で対応しており、カテーテル業務をはじめ、ペースメーカー関連業務、アブレーションなどの不整脈業務、各種デバイスの操作管理を実施しております。また、今年度よりペースメーカー遠隔モニタリング業務が新規に始まりました。

MEセンターが地下より高層棟4階の新生児室へ移動し、8月より医療機器管理システムの稼働に至りました。機器の貸出について借用伝票での管理でしたが、ペーパーレス化を目指し、借用者が機器に貼られたQRコードを読み取り借用していくシステムになり、

24時間いつでも貸出可能であり、看護師から看護補助者まで誰でも対応が可能で、シームレスなサービスの提供につながったのではないかと思います。

2023年度は色々な事があり波乱に満ちた年でした。2024年度は良い方向に向かうようスタッフ一同業務していきたいと思えます。

## 2. 統計

### 【2023年中央臨床工学部関連業務件数】

#### 血液浄化

HD・HDF・HF		CHDF	PMX-DHP	LDL-A	CART	出張浄化
(外来) 4,490	(入院) 1,380	39	1	8	15	42

#### 循環器

心臓 カテーテル		末梢 (EVTなど)	IVRなど	ABL	PM関連	PM チェック	補助循環
CAG	PCI						
226	87	108	17	59	47	232	6

#### 医療機器貸出点検件数

輸液 ポンプ	シリンジ ポンプ	経腸栄養 ポンプ	送信機	モニタ	人工 呼吸器	NPPV	搬送用 呼吸器
1,125	487	27	184	26	59	120	64

#### その他

医療機器修理	定期部品交換
18	286

## 34. 健康診断部

---

### 【医師（令和5年度在籍）】

部 長：谷 理恵

#### 1. 1年のあゆみ

2023年度は前年度と同様、医師1名体制で診療に従事しました。

5月には新しい健診システムが導入され、報告書作成等の効率化を図っています。

翌2月からは利用者の利便性を考慮し、人間ドックのWeb予約を開始しました。

石綿、有機溶剤などの特殊健診、大田区健診に関してはやや減少傾向となりましたが、今後も積極的に受け入れていく方針です。

#### 2. 資格・専門医等

部 長：谷 理恵

専門医：日本消化器病学会消化器病専門医

日本消化器内視鏡学会内視鏡専門医

日本肝臓学会肝臓専門医

日本総合健診医学会・日本人間ドック予防医療学会専門医

### 3. 統計

#### 【実績】

(件数)

健診項目		令和3年度	令和4年度	令和5年度	
人間ドック	脳ドック	19	21	7	
	半日ドック	517	489	486	
	一泊ドック	43	50	55	
	小 計	579	560	548	
一般健診	定期健診	317	324	361	
	雇入健診	48	65	72	
	公害	117	113	82	
	成人健診	5	2	0	
	その他	8	15	7	
	労災二次検診	6	7	14	
	風しん抗体検査	4	2	1	
	小 計	505	528	537	
大田区健診	特定健診	563	503	483	
	肺癌検診	339	265	226	
	大腸癌検診	372	277	256	
	胃癌検診	237	165	187	
	骨粗しょう症検診	-	1	0	
	小 計	1511	1211	1152	
特殊健診	粉塵	55	53	55	
	有機溶剤	62	45	43	
	禁止物質	ベンジジン他	32	32	25
		石綿	536	513	472
	特化1類	ジアニシジン他	2	2	3
	特化2類	カドミウム他	62	49	50
	特化3類	砒素他	16	0	0
	その他	深夜業	418	408	384
	特殊健診小計	1183	1102	1032	
合 計	3778	3401	3269		

## 35. 栄養管理部

### 1. 1年のあゆみ

令和4年度は給食委託業者の入れ替わりがあり、給食管理業務が主となっていたが、令和5年度は4月から病棟担当制に体制を整え、栄養管理業務の向上に努めた。5月からは早期栄養介入管理加算の算定を開始した。

栄養食事指導に関しては、4月から透析室での栄養食事指導を開始し、6月からは腎臓病教室を開催している。同規模の系列病院の中では入院栄養食事指導件数が少なかったため、11月から入院主治医に積極的に働きかけを行い、指導件数増加につなげることができた。

食事サービスに関しては、ながらく見直しがされていなかった献立の見直しを行い、患者から要望の多いメニューを取り入れる等、サービスの向上に取り組んでいる。緩和ケアや化学療法で食欲不振の方から要望が多かったそうめんやアイス（氷菓子）の提供を開始し、好評を得ている。

今後もスタッフ一同できめ細かい栄養管理、食事サービスの向上に努めていきたいと思えます。

### 2. 資格・専門医等

病態栄養専門管理栄養士 4名、日本糖尿病療養指導士 5名、  
健康運動指導士 2名、栄養経営士 1名

### 3. 業績

#### 令和5年度栄養指導件数等

項目名	請求件数
外来栄養食事指導料（初回）	224
外来栄養食事指導料（2回目以降）	5,941
入院栄養食事指導料（初回）	575
入院栄養食事指導料（2回目以降）	131
外来集団栄養食事指導	2
入院集団栄養食事指導	165
計	7,038

栄養サポートチーム加算	771
個別栄養食事管理加算	721
早期栄養介入管理加算（経腸）	125
早期栄養介入管理加算（その他）	500

特別食加算	114,319
-------	---------

## 36. 看護部

### 1. 1年のあゆみ

令和5年度看護部目標を2点に定め目標達成に向けて取り組んだ。

1. 看護の核となる力を高め、信頼される看護を実践する
2. やりがいを持ち、働き続けられる職場環境を整備する

#### <取り組み1：看護師確保と定着化>

令和5年度は、新たに40名（新卒看護師25名・既卒看護師15名）の新採用者を迎え、看護師配置数335名（スタート許可数353名のため18名のマイナス）でスタートした。当院看護師の離職者は、令和2年のコロナ禍より年間60名前後と高値で推移し、看護師確保と定着化は、看護部の喫緊の課題であった（令和4年度：離職者61名・離職率20.4%）。課題解決に向け今年度は、新人看護師教育支援体制の再構築、既卒採用看護師のフォローアップ体制の強化、働きやすい環境を整備するため業務の標準化・効率化等に取り組んだ。また、職場風土アンケートを実施し、心理的安全性を高めるための職場環境の改善に努めた。それらの取り組みにより、令和5年度の離職者は43名（離職率14.6%）と一定の成果が得られた。

#### <取り組み2：効果的な病床運用>

効果的な病床運用するために、地域包括ケア病棟と4西病棟の有効活用、7西病棟一般病棟への転換に取り組んだ。

地域包括ケア病棟は、さらに効果的な病床管理ができるよう今年度より夜間看護体制を夜勤2名から3名へ増員した（試行）。増員により夜間の緊急入院の対応や受け入れ患者の拡大が可能となった。また、一般急性期病棟からの患者受け入れを適切かつ計画的に行うために多職種で構成する転棟判定会議を定例開催することとなった。判定会議を開催することにより、各部署においても入院期間の適正化が促進された。病院全体の病床利用率が低迷していたため、目標に掲げた病床利用率80%以上の実現には至らなかったが、看護師の増員、多職種による判定会議、レスパイト機能強化等の受け入れ体制の整備ができた。もう1点は、4西病棟の夜間救急入院（オーバーナイト）への対応に取り組んだ。4西病棟を有効活用するために、夜間の救急入院を優先的に受け入れる体制を整備し、5月より開始した。夜間救急入院総数1,141件（5～3月）に対して、4西病棟の入院は446件で、全体の約40%の入院に対応できた。4西病棟のオーバーナイト入院対応により、その他の病棟への入院件数が減少し、病棟看護師の負担軽減にも繋がった。さらに7西病棟を新型コロナウイルス感染症専用病棟から一般病棟へ転換した。新型コロナウイルス発生後より約3年間、専用病棟として運用していたが令和5年4月より準備を進め段階的に、呼吸器内科・腎代謝内科の患者を受け入れる一般急性期病棟へ転換した。

他にも、業務改善推進による時間外勤務時間の削減（看護記録時間の削減）、業務の効率化・標準化の取り組み（認知症ケア看護計画の標準化、5東病棟転棟時の業務整理等）、入院時嚥下機能スクリーニング実施（全患者）、教育の充実（専門・認定看護師企画研修の充実・

教育指導者研修の開催、急変対応プログラムの構築）等、目標達成に向けて様々なことに意欲的に取り組んだ1年であった。

## 2. 資格・専門医等

### 専門看護師

精神看護	慢性疾患看護
1	1

### 認定看護師（★特定認定看護師）

皮膚・排泄ケア	摂食嚥下障害看護	糖尿病看護	感染管理
3★	2	2	1
手術看護	クリティカルケア	透析看護	緩和ケア
1	1★	1	1
がん化学療法	心不全看護		
1	1★		

### 特定看護師

基本領域	創傷管理	救急・集中	糖尿病ケア
3	2	2	5

\*うち4名はR5年研修修了者

## 3. 業績

演 題 「COVID-19 入院患者における認知症ケア加算対象者の割合の変化」

演 者 柳田香織 第12回日本認知症予防学会学術集会、朱鷺メッセコンベンションセンター、2023年9月15～17日

### 【看護部データ】

看護職員数			看護部職員数			
正規職員	335	うち男性看護師 18名	看護師	339	看護補助者	17
嘱託職員	25	うち定年後再雇用 6名	助産師	11	クラーク	6
看護師総数	350		総数	383		

2023年4月		卒業教育機関	
看護師平均年齢	35.9歳	大学	50名
当院勤続年数	8.6年	専門・短期大学	174名
看護師経験年数	13.4年	労災看護専門学校	116名

### 令和5年度看護学実習受け入れ

学校名	領域	期間	実習部署	学年
東京工科大学	基礎看護学実習	2024.1.29 ~ 2.16	4 東・5 東・5 西・6 東・ 6 西・7 東	2 年生
	統合看護学実習	2023.7.10 ~ 7.21	4 西・6 西	4 年生
	成人看護学実習 I・II	2023.8.28 ~ 12.15	4 西・5 東・5 西・6 東・ 6 西・7 東	3 年生
			ICU・手術室・透析室・ 入退院支援センター	
神戸常盤大学 短期大学部 看護学科 通信性課程	成人看護学実習	2023.7.27 ~ 7.28	4 西・5 西	2 年生
	老年看護学実習	2023.8.3 ~ 8.4	4 西・7 東	2 年生
東京都立 荏原看護 専門学校	その人らしさを考える 実習	2023.7.10 ~ 7.21	5 東・5 西・6 東・7 東	2 年生
	看護の基礎実習 I	2023.9.4 ~ 9.8	4 西・5 東	1 年生
昭和大学 認定看護師 教育課程	感染管理分野 腎不全看護分野 クリティカルケア分野	2024.1.18 ~ 2.9	4 西・4 東・5 西・5 東・ 6 西・6 東・7 西・7 東・ 外来・救急外来・透析 室・手術室・入退院支 援センター	

## 37. 地域医療連携室

### 1. 1年のあゆみ

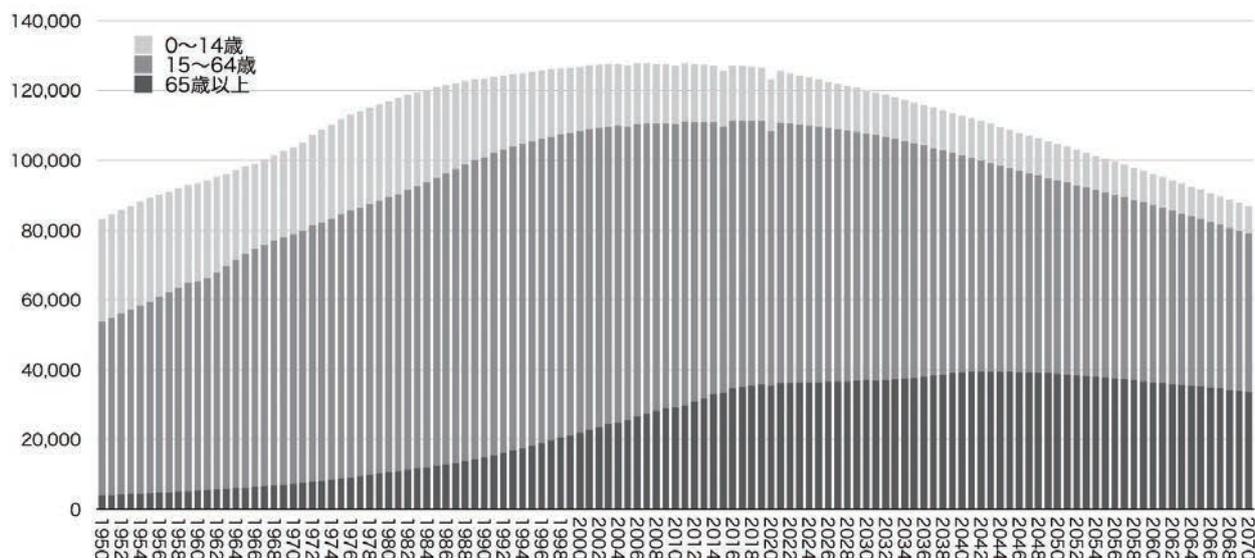


図1 高齢化の推移と将来推計 ([https://www.ipss.go.jp/pp-zenkoku/j/zenkoku2023/pp\\_zenkoku2023.asp](https://www.ipss.go.jp/pp-zenkoku/j/zenkoku2023/pp_zenkoku2023.asp))

〔国立社会保障・人口問題研究所〕

上図は日本の将来推計人口（2023年推計）より作図したものである。2050年には、37%以上が65歳以上の高齢者となる。少子高齢化により、通院・入院患者は増大、病院に患者が集中し、医療が逼迫する。そのため2014年医療介護総合確保推進法が成立、急性期・回復期など医療の役割分担が制度化された。しかしながら、それぞれの医療機関は経営母体が異なり、それぞれの病院・診療所などの状況を共有しているわけではなかった。医師がいくつかの病院に電話し、次の道筋を作らなければならず、効率が悪かった。

東京労災病院では、2008年8月、更なる地域医療機関との病診連携の充実・推進を目的として、専任の師長・事務員を配置した地域医療連携室を正面玄関横に設置した。外来診療の予約、退院支援業務、診療情報提供書・経過報告書の送付と管理、医療社会福祉士による医療相談などを行ってきた。

コロナ禍で2020年以降医療連携懇話会は開催していなかったが、2023年7月20日プラザ・アペアにおいて令和5年東京労災病院医療連携懇話会を開催することができた。大森医師会長・蒲田医師会長をはじめ45医療機関・77名（病院職員57名）のご参加をいただいた。改めて、「顔の見える連携」とアルコールの意義を実感した。

### 2. 統計

#### 【令和5年度紹介・逆紹介・紹介入院件数】

	R5年度
紹介患者数	9,064
逆紹介患者数	10,071
紹介入院患者数	2,352

## 38. 治療就労両立支援センター

### 【人員構成（令和5年度在籍）】

兼務：杉山政則所長、加藤宏一両立支援部長、神山博彦両立支援部長

専任：林健予防医療部長、保健師、管理栄養士、作業療法士、臨床心理士、MSW

### 【両立支援部】

(1) 実績	令和5年度 両立・就労両立支援指導料算定件数	16件
--------	------------------------	-----

令和5年度支援実績①	n	%
全入院患者数	6,557	
有識者の入院患者数	2,011	30.7%
有識者のうち両立支援開始者数	55	27.0%
分野別内訳		
がん分野	13	23.6%
脳卒中分野	12	21.8%
メンタル分野	4	7.3%
糖尿病分野	0	0.0%
その他分野	26	47.3%
その他分野内訳		
整形外科	8	30.8%
脳神経内科	5	19.2%
消化器内科	3	11.6%
腎代謝内科	3	11.6%
循環器科	2	7.7%
脳神経外科	2	7.7%
呼吸器内科	1	3.8%
泌尿器科	1	3.8%
脳神経移植科	1	3.8%

### (2) 第71回日本職業・災害医学会学術大会

高次機能障害により復職後に異動、退職となった両立支援介入例の検討	加藤宏一部長
中小企業での治療と仕事の両立支援に必要なことに関するアンケート調査	神山博彦部長

### 第54回日本脾臓学会大会

脾疾患患者の治療と仕事の両立支援 - 労働者健康安全機構 (JOHAS) の取組み -	新明綾乃MSW
---	---------

## 【予防医療部】

## (1) 実績

企業測定会	講演	学会発表	執筆
3回（124人）	21回（1,236人）	2回	3回

## (2) 予防医療モデル調査研究：第4期中期計画研究期間（令和元年度～令和5年度）

タクシードライバーにおける動脈硬化性疾患予防に向けた効果的な生活習慣指導法の開発	平澤芳恵管理栄養士
出張測定における3分禁煙指導の効果と今後の指導方法の開発	上田恵保健師
勤労中高年層における一日の活動量と体組成調査—体組成の経年変化からみる働く高齢者の健康維持を目指した指導法開発—	佐藤さとみ作業療法士

## (3) 第71回日本職業・災害医学会学術大会

高齢労働者における安全・健康確保と栄養管理～タクシードライバーの事例から～	平澤芳恵管理栄養士
喫煙者への動機づけ面接を活用した数分間の関わりによる、禁煙の関心度向上の変化	上田恵保健師

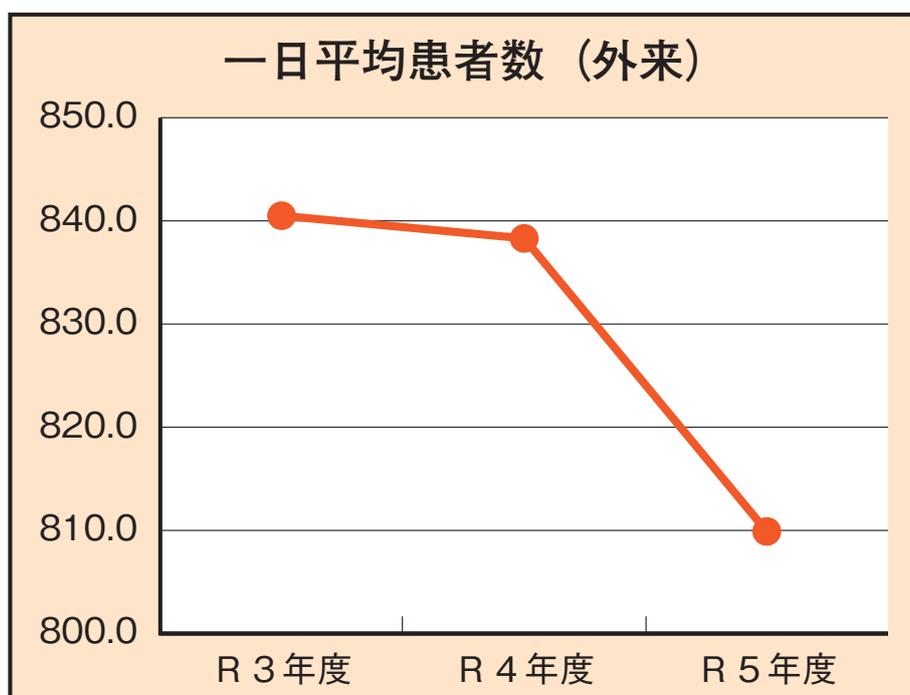
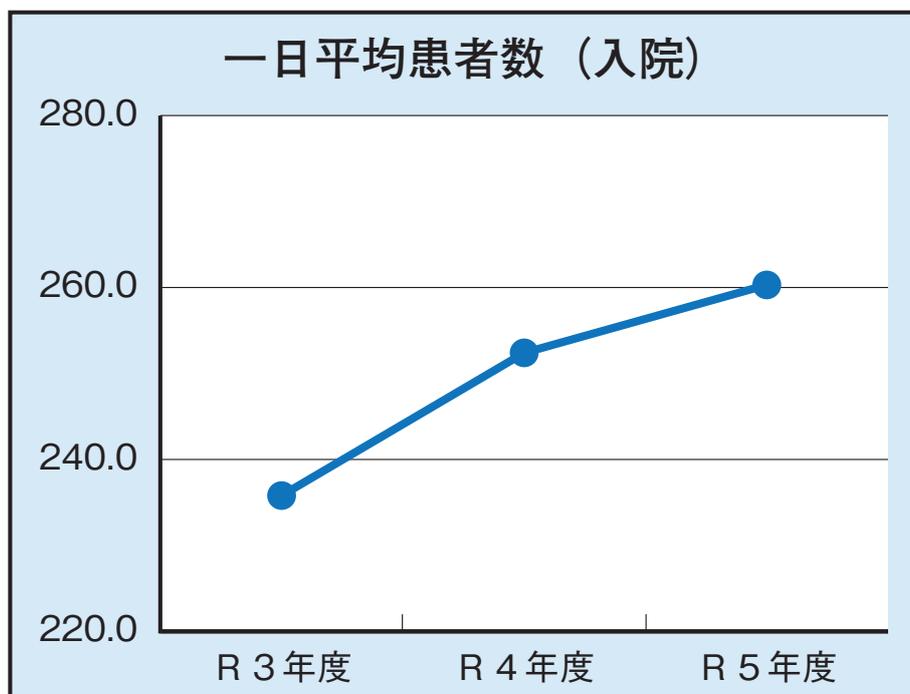


### Ⅲ. 業務統計



## 1. 患者数等推移

	R 3年度	R 4年度	R 5年度
一日平均患者数（入院）	235.8	252.4	260.3
一日平均患者数（外来）	840.5	838.3	809.9



## 2. 令和5年度C P C開催状況

場 所：東京労災病院大会議室

時 間：17時～18時

開催回数：3回

※大森医師会、蒲田医師会へ開催通知を発信

開催日	検討症例	診療科	プレゼンター
7月12日（水）	「頭部血管肉腫に肺移転をきたした1例」	皮膚科	林 健
10月11日（水）	「脳生検できなかった中枢神経系原発悪性リンパ腫の1例」	脳神経内科	三品 雅洋
3月13日（水）	「入院中に急性間質性肺炎を来した1例」	呼吸器内科	八木沢 万里江

## IV. 出来事



## 令和5年度の主な出来事

4月	3日	新規採用者オリエンテーション
5月	8日	看護週間：生花設置・「心に残った看護エピソード・家族の絵」掲示
	29日	「やさしい日本語」出前研修実施
6月	24日	区民公開講座「認知症と睡眠」（三品脳神経内科部長）
7月	3日	永年勤続表彰式
	20日	医療連携懇話会（於：プラザ・アペア蒲田）
	31日	初期臨床研修医選考試験（1回目）
8月	28日	初期臨床研修医選考試験（2回目）
	16日	出張講座「免疫力を高める食事」（管理栄養士）
9月	23日	区民公開講座「大腸がんについて」～早期発見・早期治療～ （西中川消化器内科部長）
10月	12日	出張講座「骨粗鬆症予防の食事」（管理栄養士）
	22日	第10回いつつのわふれあい祭り（無料健康相談）（於：森ヶ崎交通公園等）
11月	4日	OTAふれあいフェスタ（於：平和島公園）
	10日	出張講座「今日からはじめる フットケア～足から延ばす健康寿命～」（看護師）
12月	2日	区民公開講座「わたしたちと糖尿病」～ワイワイガヤガヤみんなで話そう～ （古賀糖尿病・内分泌内科副部長）
	7日	出張講座「誤嚥性肺炎について」（看護師）
1月	11日	出張講座「薬の飲み合わせ」（薬剤師）
2月	8日	出張講座「血圧を下げる薬の話」（薬剤師）
3月	8日	出張講座「糖尿病ってどんな病気？」（看護師）
	9日	大田区合同災害訓練
	15日	臨床研修医研究発表会

写 真



2023.05.10 看護週間（家族の絵）



2023.05.29 「やさしい日本語」出前研修



2023.06.24 区民公開講座「認知症と睡眠」（三品部長）



2023.07.03 永年勤続表彰式



2023.07.20 医療連携懇話会



2023.09.23 区民公開講座「大腸がんについて」(西中川部長)



2024.03.09 災害訓練



2024.03.15 臨床研修発表会

東京労災病院年報  
2023  
第23号

令和6年12月発行

編集発行人 森田明夫

発行所 独立行政法人 労働者健康安全機構

東京労災病院

〒143-0013 東京都大田区大森南4-13-21

TEL.03 (3742) 7301

印刷・製本 株式会社 大和

〒210-0858 川崎市川崎区大川町11-6

TEL.044-322-7500



独立行政法人 労働者健康安全機構

東京労災病院

〒143-0013 東京都大田区大森南 4-13-21

TEL:03(3742)7301(代表) FAX:03(3744)9310